横隈上ノ原上遺跡５

－福岡県小郡市横隈所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第３４６集

２０２２

小郡市教育委員会

序　文

本書は、宅地造成に伴う道路工事に先立ち、小郡市教育委員会が実施した横隈上ノ原上遺跡５の発掘調査の記録です。

調査地は小郡市北西部、脊振山系から東に延びる三国丘陵の東端部に位置します。周辺では、これまで数回にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物が確認されています。今回の調査でも、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡などの遺構を検出し、周辺の遺跡との関連が注目されます。

本調査で得られた情報は、市内における弥生時代の集落様相を明らかにする上で重要な成果となりました。本書が文化財への理解、普及、さらに学術研究の進展の一助となれば幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた周辺住民の皆様、また地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

令和４年３月３１日

小郡市教育委員会
委員長　秋永晃生

例　言

1．本書は、小郡市横隈地内における道路開発工事に伴って、小郡市教育委員会が令和２年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2．発掘調査は株式会社 海王から委託を受け、小郡市教育委員会が行った。
3．遺構の写真撮影は一木賢人が行い、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
4．遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
5．遺物の写真撮影は、（有）システム・レコに委託した。
6．遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
7．図中の遺構表記は．SC（住居跡）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）を用いた。
8．遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
9．本書の執筆及び編集は、一木が担当した。

本文目次

第１章　調査の経過と組織…… 1
　１．調査に至る経緯…… 1
　２．調査の経過…… 1
　３．調査組織…… 1
第２章　位置と環境…… 1
第３章　遺構と遺物…… 4
　１．竪穴式住居跡…… 4
　２．土坑…… 22
　３．溝状遺構…… 23
　４．不明遺構…… 24
第４章　まとめ…… 41
出土遺物観察表…… 42
写真図版

挿図目次

第１図　横隈上ノ原上遺跡過去の調査地点位置図 (S=1/5,000) …… 2
第２図　横隈上ノ原上遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S=1/25,000) …… 2
第３図　横隈上ノ原上遺跡５遺構配置図 (S=1/300) …… 3
第４図　1・2 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 9
第５図　3・4 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 10
第６図　5 ～ 7 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 11
第７図　9 ～ 12 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 12
第８図　13 ～ 16・23 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 13
第９図　17 ～ 20 号住居跡実測図 (S=1/80) …… 14
第10図　21・22・25 号住居跡・5 号溝状遺構実測図 (S=1/80) …… 15
第11図　1・2・4・5・7 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4) …… 16
第12図　3・8 ～ 10 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4) …… 17
第13図　13・14 ～ 16・19 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4) …… 18
第14図　17 号住居跡出土土器実測図 (1 は S=1/5、他は S=1/4) …… 19
第15図　17・21 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4) …… 20
第16図　20 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4) …… 21
第17図　2・4 号土坑実測図 (S=1/80) …… 25
第18図　3・5 ～ 7 号土坑実測図 (S=1/60) …… 26
第19図　1・2・4 号土坑出土土器実測図 (7・8 は S=1/5、他は S=1/4) …… 27
第20図　5・8 号土坑出土土器実測図 (S=1/4) …… 28
第21図　7 号土坑出土土器実測図① (S=1/4) …… 29
第22図　7 号土坑出土土器実測図② (S=1/4) …… 30
第23図　7 号土坑出土土器実測図③ (S=1/4) …… 31
第24図　7 号土坑出土土器実測図④ (S=1/4) …… 32
第25図　6 号溝状遺構実測図 (S=1/80) …… 33
第26図　3・5 号溝状遺構・1・2 号不明遺構出土土器実測図 (S=1/4) …… 34
第27図　6 号溝状遺構出土土器実測図① (S=1/4) …… 35
第28図　6 号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4) …… 36

第29図　出土石器実測図①(1～5はS=1/2、6～9はS=1/4) …… 37
第30図　出土石器実測図②(S=1/2) …… 38
第31図　出土石器実測図③(S=1/4) …… 39
第32図　出土縄文土器・土製品実測図(S=1/2) …… 40
第33図　出土鉄製品実測図(S=1/2) …… 40
第34図　横隈上ノ原上遺跡5遺構変遷図(S=1/600) …… 41

表目次

表1　横隈上ノ原上遺跡5　出土土器観察表 …… 42
表2　横隈上ノ原上遺跡5　出土石器観察表 …… 47
表3　横隈上ノ原上遺跡5　出土縄文土器・土製品観察表 …… 47
表4　横隈上ノ原上遺跡5　出土鉄製品観察表 …… 47

図版目次

図版1①調査区遠景（北東から）
図版2①調査区北部全景（上空から）
図版3①1号住居跡貼床面（北西から）
②1号住居跡完掘（西から）
③1号住居跡土層断面（東から）
④2号住居跡貼床面（北東から）
図版4①4号住居跡貼床面（南西から）
②4号住居跡完掘（南西から）
③5号住居跡貼床面（西から）
④5号住居跡完掘（西から）
図版5①9・10号住居跡貼床面（西から）
②11号住居跡貼床面（西から）
③12～15号住居跡貼床面（南から）
④16号住居跡貼床面（南から）
図版6①22号住居跡完掘（東から）
②2号土坑完掘（南東から）
③3号土坑土層断面（南から）
④4号土坑完掘（南西から）
図版7①4号溝状遺構完掘（西から）
②5号溝状遺構完掘（西から）
③6号溝状遺構完掘（北西から）
④6号溝状遺構西壁土層断面（東から）
図版8～11　出土土器
図版12　出土石器
図版13　出土石器・鉄製品
②調査区遠景（北から）
②調査区南部全景（上空から）
⑤2号住居跡完掘（西から）
⑥2号住居跡土層断面（南から）
⑦3号住居跡貼床面（南西から）
⑧3号住居跡完掘（南西から）
⑤6・7号住居跡貼床面（西から）
⑥6号住居跡完掘（北から）
⑦7号住居跡完掘（北西から）
⑧8号住居跡完掘（北東から）
⑤17号住居跡貼床面（東から）
⑥19・20号住居跡貼床面（南から）
⑦21号住居跡貼床面（北西から）
⑧21号住居跡完掘（西から）
⑤5号土坑土層断面（南から）
⑥7号土坑遺物出土状況（北から）
⑦1号溝状遺構完掘（北から）
⑧3号溝状遺構完掘（西から）
⑤6号溝状遺構東壁土層断面（西から）
⑥1号不明遺構完掘（東から）
⑦2号不明遺構完掘（北から）

第１章　調査の経過と組織

１．調査に至る経過

今回の開発事業に関する当該地の事前審査は、株式会社海王より提出された宅地造成に伴う埋蔵文化財の有無の照会(平成29年９月15日付 小教文第7079号、令和２年２月17日付 小文教9136号・9137号）に始まる。これを受けて、小郡市教育委員会が申請地を対象に試掘調査を実施した結果、弥生～古墳時代の遺跡の存在を確認した。この結果に基づき、令和２年６月18日付で埋蔵文化財発掘の届出が提出され、協議の結果、道路部分666.73㎡について発掘調査を実施することで合意した。現地発掘調査は令和２年度に、出土遺物の整理作業、報告書作成は令和３年度に実施した。

２．調査の経過

調査範囲は、開発工事に伴う道路部分666.73㎡である。現地調査は令和２年９月１日に着手し、令和３年１月29日に終了した。主な調査の経過は、以下の通りである。

令和２年９月１日：重機を搬入。調査区北側の表土剥ぎを開始。
９月８日：発掘作業員を投入して調査開始。
11月10日：調査区北側の空撮。
12月11日：調査区北側の埋め戻し。
12月18日：調査区南側の表土剥ぎ開始。
12月22日：調査区南側の調査開始。
令和３年１月６日：南半部の図面作業、レベル入れ。
１月12日：南半部の空撮。
１月29日：南半部の埋め戻し終了。

３．調査組織

令和２・３年度の横隈上ノ原上遺跡５における発掘調査の関係組織は、以下の通りである。

＜小郡市教育委員会＞

教育長		秋永 晃生
教育部	部　長	山下 博文
文化財課	課　長	柏原 孝俊
	係　長	杉本 岳史
	嘱　託	一木 賢人

第２章　位置と環境

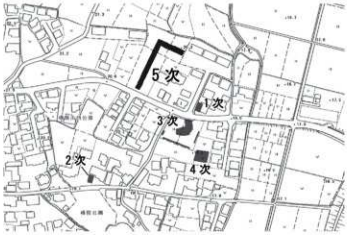
横隈上ノ原上遺跡５は、小郡市横隈字上ノ原上815-1、816-1・2・3に位置し、市の北西部に広がる通称三国丘陵から、宝満川沿いの低地へと至る標高約20ｍ前後の低台地上にある。周辺は遺跡の密集地帯で、約300ｍ南西には弥生時代中期の墓地である横隈上内畑遺跡１地点が存在している。

横隈上ノ原上遺跡は、アパート建築に伴う防火水槽建設に伴い、平成５年（1993）に初めて調査された。検出されたのは弥生時代後期の住居跡２軒、土坑２基、古墳時代後期の土坑１基、溝１条などで、1号住居跡はベッド状遺構を持つ。２次調査は、農業用倉庫の建設に伴い、平成11年（1999）に実施された。溝やピットを検出したが、詳細は不明である。３次調査は、宅地造成に伴って平成27年（2015）に行われ、弥生時代の大型溝１条、土坑２基、周溝状遺構１基、古代の住居跡13軒、土坑5基を確認した。弥生時代の大型溝は幅約2.4mで、東西方向に走る。下層から丹塗土器が出土し、周辺の集落・墓地の展開と関わりを持つ遺構と考えられる。４次調査は、個人住宅の建築に伴って

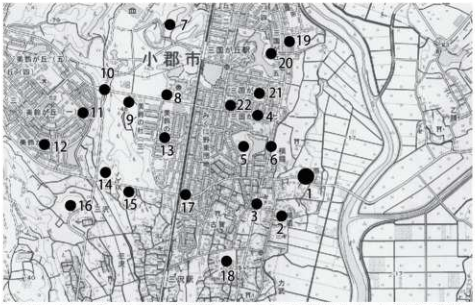
平成30年（2018）に実施され、弥生時代の溝2条、古代の溝2条と土坑1基、中世の溝3条と土坑1基を確認した。それぞれの時期の溝は、過去の調査で検出した遺構や周辺遺跡の時期と合致しており、地形的な特徴と合わせて、集落から宝満川に至る低地に向かって溝が掘削されていたと考えられる。

当遺跡の周辺には、弥生時代と古代を中心とする遺跡が数多く確認されている。弥生時代では、集落として丘陵上に横隈狐塚遺跡7地点があり、前期中頃の住居跡8軒、貯蔵穴58基、土坑31基などが確認された。貯蔵穴は深さ2mを越えるものが28基存在するなど残存状況が良好で、75号土坑（貯蔵穴）からは、14.36kgの炭化米が出土した。墓地としては横隈狐塚遺跡1～7地点、横隈上内畑遺跡1～6地点などがある。横隈狐塚遺跡では、2・7地点を合わせて、弥生時代中期初頭から後期中頃の甕棺墓394基、土壙墓211基などを確認した。なお、7地点197号甕棺墓では、中位胸椎に銅剣の切先が嵌入した状態の殺傷人骨を検出した。横隈上内畑遺跡2～6地点では、土壙墓204基、甕棺墓41基、木棺墓36基などが確認された。時期は前期（木棺墓など）と後期（土壙墓など）を中心とし、土壙墓には足元掘込式、横口式、二段掘りなどがある。

古代の集落としては、横隈仕解田遺跡や横隈狐塚遺跡7地点などがある。前者は横隈上ノ原上遺跡と立地も近く、住居跡13軒、大溝1条、土坑などが検出された。後者では、6世紀末から7世紀初頭を中心にする住居跡9軒、竪穴状遺構2基、土坑3基などが確認されている。

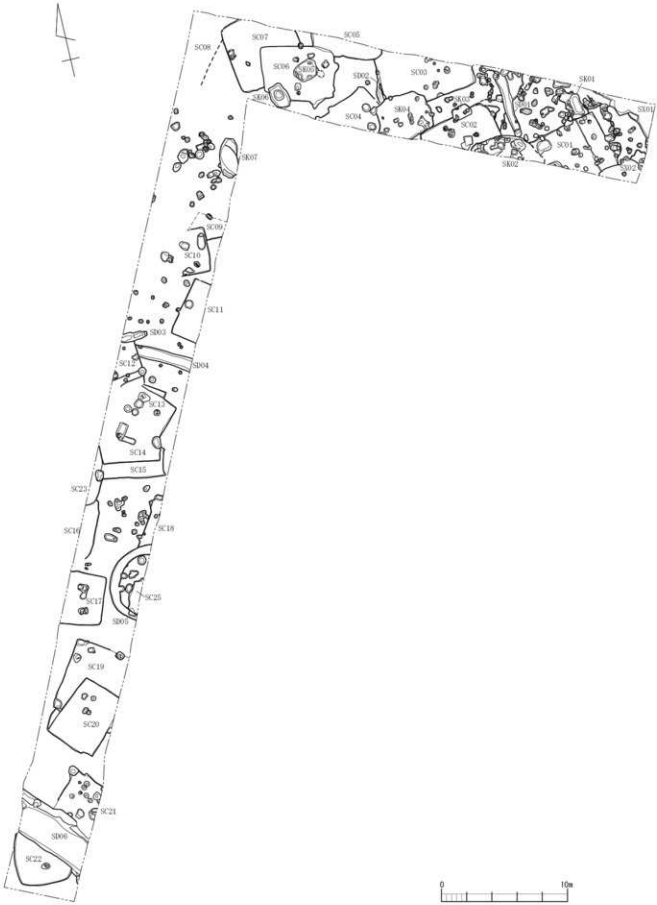


第1図　横隈上ノ原上遺跡過去の調査地点位置図
(S=1/5,000)



1. 横隈上ノ原上遺跡　2. 横隈上内畑遺跡1　3. 横隈上内畑遺跡2～6　4. 横隈狐塚遺跡2
5. 横隈狐塚遺跡7　6. 横隈仕解田遺跡　7. 三沢遺跡　8. 三沢蓬ヶ浦遺跡
9. 三沢公家隈遺跡　10. 三沢ハサコの宮遺跡　11. 一ノ口遺跡　12. 北松尾口遺跡
13. 三沢北中尾遺跡　14. 北牟田遺跡　15. 牟田々遺跡　16. 三沢栗原遺跡
17. 横隈山遺跡6・7　18. 三国小学校遺跡　19. 三国の鼻遺跡　20. 横隈北田遺跡
21. 横隈鍋倉遺跡　22. 横隈山古墳

第2図　横隈上ノ原上遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S=1/25,000)



第３図　横隈上ノ原上遺跡５遺構配置図（S=1/300）

第３章　遺構と遺物

横隈上ノ原上遺跡５で検出した主な遺構は、以下の通りである。周辺の遺跡の状況から、調査前は古代の集落の存在を想定していたが、今回の調査で確認した遺構の中心は弥生時代である。なお、遺構検出面の直上層からは古代の須恵器・土師器が多く出土しており、古代の遺構が存在していた可能性も考えられる。

・弥生時代中期～後期前半　‥　住居跡９軒、土坑５基、溝状遺構３条
・弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭　‥　住居跡７軒
・時期不明　‥　住居跡８軒、土坑２基、溝状遺構３条、不明遺構２基

１．竪穴式住居跡

１号住居跡（第４図、図版３）

調査区北東隅部に位置し、標高は 20.2 m を測る。南側は調査区外に延び、西側は一部２号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.78 m、短軸 4.73 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15 ～ 25cm である。東側にはベッド状遺構を伴う。床面にはピットを多く確認したものの、主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 11 図、図版８）

第 11 図１は甕で、口径 17.7 ㎝、器高 23.0 ㎝を測る。胴部外面の剥離面にもススが付着している。３は小型の鉢で器高 6.5 ㎝、４は小型の坏で、口径 6.7 ㎝、器高 6.3 ㎝を測る。

２号住居跡（第４図、図版３）

調査区北東部に位置し、標高は 20.3 m を測る。西側は調査区外に延び、南側は２号土坑に、北側の一部を３号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.92 m、短軸 3.14 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 26cm である。床面にはピットを多く確認したものの、主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 11 図、図版８）

第 11 図７は復元口径 37.8 ㎝を測る大型の甕で、外面口縁部下位に突帯を１条有する。10 が樽型に近い甕で、口径 16.7 ㎝、器高 16.3 ㎝を測る。

３号住居跡（第５図、図版３）

調査区北東部に位置し、標高は 20.3 m を測る。北側は調査区外に延び、南側は４号土坑に、西側の一部を５号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 7.40 m、短軸 4.77 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 28cm である。調査当初は平面プラン長方形の住居跡と考えていたが、完掘後の東西の掘方の深さの違いや柱穴とみられるピットの位置から、２軒の住居跡が切り合っている可能性も考えられる。

出土遺物（第 12・32 図、図版８）

第 12 図１は甕で、口径 22.0 ㎝、器高 28.8 ㎝を測る。６は無頸壺で、復元口径 9.8 ㎝である。第 32 図１・２は押型文土器鉢の小片である。

４号住居跡（第５図、図版４）

調査区北東部に位置し、標高は 20.0 m を測る。南側は調査区外に延び、東側は４号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.72 m、短軸 3.80 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 26cm である。床面東部で大型のピットを確認したが、主柱穴になるかは不明である。

出土遺物（第 11・30・33 図、図版 12・13）

第 11 図 11 は甕で、口径 22.4 ㎝を測る。第 30 図 5 は小型の砥石で、3 面の使用が見られる。第 33 図 3 は鉄鏃で、長さ 4.6 ㎝を測る。

5 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北部に位置し、標高は 20.2 m を測る。北側大部分は調査区外に延び、南西側は一部 6 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.82 m、短軸 1.56 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 28㎝である。

出土遺物（第 11・31 図、図版 12）

第 11 図 6 は、甕の底部小片である。第 31 図 4 は砥石で、4 面を砥面として使用している。

6 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北西部に位置し、標高は 20.3 m を測る。5 号住居跡、7 号住居跡、5 号土坑を切り、6 号土坑に切られる。平面長方形状を呈し、規模は確認できる範囲で長軸 5.88 m、短軸 4.38 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15 ～ 25㎝である。床面の南北に 2 基の主柱穴を有し、深さはそれぞれ 47・48 ㎝を測る。床面中央やや西側や北壁付近で焼土を検出した。

出土遺物（第 29 図、図版 12）

土器は小片のみで、図化していない。第 29 図 3 は石庖丁の再加工品である。現状で長さ 10.4 ㎝、幅 3.5 ㎝を測り、穿孔は 2 か所とも残存する。

7 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北西部に位置し、標高は 20.2 m を測る。北側は調査区外に延び、南東部は 6 号住居跡に切られる。平面方形を呈し、規模は確認できる範囲で長軸 5.78 m、短軸 4.73 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15 ～ 25㎝である。床面に比較的大型のピットを持つが、主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 11・31 図、図版 8・12）

第 11 図 14 は小型の壺で、口径 12.0 ㎝、器高 14.9 ㎝を測る。第 31 図 5 は小型の砥石で、5 面を砥面として使用している。

8 号住居跡（第 3 図、図版 4）

調査区北西端部に位置し、標高は 20.2 m を測る。西側は調査区外に延びる。比較的大型の住居跡であるが、遺構図の作図を失念したため、詳細は不明である。

出土遺物（第 12・30 図、図版 12）

第 12 図 8 は高坏の坏部で、復元口径 19.6 ㎝を測る。調整は、坏部内外面ともヘラミガキを施す。10 は小型の鉢で、復元口径 6.1 ㎝を測る。第 30 図 6 は砥石片で、2 面が砥面として使用されている。

9 号住居跡（第 7 図、図版 5）

調査区北部に位置し、標高は 19.9 m を測る。東側は調査区外に延び、北側は大きく削平を受け、南西部は 10 号住居跡に切られる。遺構は、貼床の一部とピット 1 基以外は確認できなかった。規模は、確認できる範囲で南北 2.34 m、東西 3.24 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 10㎝である。

出土遺物（第 12 図）

第 12 図 11 は甕の口縁部小片である。

10 号住居跡（第 7 図、図版 5）

調査区北部に位置し、標高は 19.9 m を測る。平面方形を呈する小型住居と考えられるが、西側は削平を受け、貼床が確認できたのは東側のみであった。掘方の規模は、長軸 3.98 m、短軸 3.52 m を測る。貼床面は遺構検出面から深さ最大 10cm である。主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 12 図、図版 8）

第 12 図 13 は鉢で、復元口径 16.8 cm、器高 10.4 cmを測る。底部裏面に種子圧痕が残る。14 は短頸壺で、復元口径 8.2 cm、胴部最大径 11.1 cm、器高 6.5 cmを測る。

11 号住居跡（第 7 図、図版 5）

調査区北部に位置し、標高は 20.0 m を測る。東側約半分の範囲は調査区外に延びる。規模は、長軸 4.74 m、短軸は確認できる範囲で 2.25 m を測る。貼床面は遺構検出面から深さ 10 ～ 15cm である。

出土遺物（第 29・30 図、図版 12）

第 29 図 4 は石庖丁片である。穿孔 2 か所が確認できる。第 30 図 2 は砥石で、4 面を砥面として使用している。

12 号住居跡（第 7 図、図版 5）

調査区中央部付近に位置し、標高は 19.9 m を測る。西側は調査区外に延び、北側は 3 号溝状遺構に、南側は 13 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 3.70 m、短軸 2.54 m を測る。検出時点で大きく削平を受けていたため、貼床面は確認できなかった。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図示していない。

13 号住居跡（第 8 図、図版 5）

調査区中央部に位置し、標高は 20.0 m を測る。検出時の平面プランの状況から、12 号住居跡、14 号住居跡を切ると考えられるが、西側は大きく削平を受けており確認できなかった。規模は、確認できる範囲で長軸 3.20 m、短軸 2.74 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15cm である。床面に多くのピットを確認したが、主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 13・33 図、図版 8・13）

第 13 図 1 は甕で、復元口径 14.2 cmを測る。3･4 は同一個体と考えられる高坏で、復元口径 35.4 cm、復元裾部径 18.4 cmを測る。坏部の内外面に暗文を施す。第 33 図 1・2・4 は鉄製品である。1 は鑿状の鉄製品で、残存長 11.6 cmを測る。

14 号住居跡（第 8 図、図版 5）

調査区中央に位置し、標高は 20.0 m を測る。検出時の平面プランや遺物出土状況から、13・15 号住居跡に切られると考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.81 m、短軸 3.17 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 10cm である。

出土遺物（第 13・29・30 図、図版 12）

第 13 図 8 は壺で、復元口径 14.9 cmを測る。口唇部に刻み目を施す。第 29 図 5 は石庖丁片で、穿孔 1 か所が残る。第 30 図 4 は小型の砥石で、3 面を砥面として使用している。

15 号住居跡（第 8 図、図版 5）

調査区中央に位置し、標高は 20.0 m を測る。検出時の平面プランや遺物出土状況から、13 号住

居跡に切られ、14 号住居跡を切ると考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.01 m、短軸 2.30 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ 10㎝である。

出土遺物（第 13 図、図版 8）

第 13 図 10 は支脚、11・12 は器台で、いずれも遺構図中に掲載した資料である。

16 号住居跡（第 8 図、図版 5）

調査区中央部付近に位置し、標高は 20.3 mを測る。西側大部分は調査区外に延び、北側は 23 号住居跡に切られる。南側は削平を受け、残存していない。規模は、確認できる範囲で長軸 4.56 m、短軸 1.28 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ 5㎝である。

出土遺物（第 13 図）

第 13 図 13 は小型の鉢で、復元口径 13.8 ㎝、器高 7.7 ㎝を測る。

17 号住居跡（第 9 図、図版 5）

調査区中央やや南部に位置し、標高は 20.2 mを測る。西側は調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.28 m、短軸 3.17 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ 16㎝である。床面に明瞭な主柱穴 2 基が確認でき、深さはそれぞれ 50・64 ㎝を測る。床面付近から大量の遺物が出土した。

出土遺物（第 14・15・29・30・32 図、図版 9・12）

第 14 図 1 は大型の甕で、口径 35.6 ㎝を測る。胴部外面は、ヘラケズリの後にタタキを施す。外面頸部に突帯 1 条を有する。2 から 5 は中型の甕で、口径は 18.5 ～ 23.4 ㎝を測る。6 は壺で、口径 12.5 ㎝、器高 24.5 ㎝を測る。第 15 図 2 から 5 は短頸壺で、口径は 12.6 ～ 17.0 ㎝を測る。8 は高坏で、復元口径 23.5 ㎝を測る。脚部中位に、外側から内側に向けて、穿孔 4 か所を施す。第 29 図 1 は、残りの良い石庖丁である。長さ 13.1 ㎝、幅 5.1 ㎝、厚さ 0.6 ㎝を測る。穿孔 2 か所が残る。第 30 図 1 は、砥石である。3 面を砥面として使用している。第 32 図 3 は、ほぼ完形の土製投弾である。長さ 4.0 ㎝、幅 2.3 ㎝を測る。

18 号住居跡（第 9 図）

調査区中央部付近に位置し、標高は 20.2 mを測る。東側大部分は調査区外に延び、南側は 5 号溝状遺構に切られる。貼床は確認できていない。規模は、確認できる範囲で長軸 4.56 m、短軸 0.96 mを測り、床面は遺構検出面から深さ 11㎝である。

出土遺物（第 30 図、図版 12）

土器は小片のみで、図化していない。第 30 図 3 は小型の砥石で、5 面を砥面として使用している。

19 号住居跡（第 9 図、図版 5）

調査区南部に位置し、標高は 20.3 mを測る。東側は調査区外に延び、南側は 20 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.80 m、短軸 4.46 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ 25㎝である。下層遺構として、南側の 20 号住居跡にかけて土坑状の掘り込みがあるが、性格は不明である。

出土遺物（第 13 図、図版 8）

第 13 図 14 は甕で、復元口径 14.8 ㎝を測る。15 も甕だが、頸部は短く、屈曲して立ち上がる。

20 号住居跡（第 9 図、図版 5）

調査区南部に位置し、標高は 20.4 mを測る。東側一部は調査区外に延び、19 号住居跡を切る。

規模は、長軸 5.44 m、短軸 4.06 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 22cm である。床面に 4 基のピットを確認したが、主柱穴は明確でない。

出土遺物（第 16・29・31 図、図版 9・10・13）

出土土器には弥生土器を含むが、中心は土師器である。第 16 図 1 は甕で、口径 15.7 cm、胴部最大径 19.3 cm、器高 21.6 cmを測る。調整は、胴部内面がヘラケズリ、外面上位がタタキ、下位がハケ目後ミガキ様の工具ナデである。5 も甕で、口径 18.2 cmを測る。外面上位に丁寧なタタキを施す。6 はミニチュアの壺で、口径 3.3 cm、器高 5.7 cmを測る。外面底部付近には、手持ちヘラケズリを施す。9 から 11 は高坏である。9 は復元口径 11.0 cm、裾部径 8.4 cm、器高 10.0 cmを測る。第 29 図 9 は小型の磨石で、第 31 図 1・3 は台石である。

21 号住居跡（第 10 図、図版 5）

調査区南部に位置し、標高は 20.4 m を測る。東側は調査区外に延びる。6 号溝状遺構との切り合い関係については、当住居跡の貼床下に 6 号溝状遺構の埋土を確認したことから、6 号溝状遺構掘削・埋没→ 21 号住居跡掘削・埋没→ 6 号溝状遺構再掘削の順と考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.12 m、短軸 3.69 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 21cm である。床面で検出したピットのうち、大型の 2 基が主柱穴と考えられる。深さはそれぞれ 63・65 cmを測る。

出土遺物（第 15・30・31 図、図版 9・12）

第 15 図 10 は短頸壺で、復元口径 15.3 cm、器高 15.4 cmを測る。口縁部 2 か所に穿孔を施す。底部裏面に種子圧痕が残る。11 も壺で、口径 7.7 cm、器高 14.6 cmを測る。口縁部は打ち欠きである。第 30 図 7・第 31 図 6 は砥石である。

22 号住居跡（第 10 図、図版 6）

調査区南端に位置し、標高は 20.0 m を測る。北側を 6 号溝状遺構に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.35 m、短軸 4.33 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 31cm である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

23 号住居跡（第 8 図）

調査区中央部に位置し、標高は 20.2 m を測る。西側大部分が調査区外に延び、北側を 14・15 号住居跡、南側を 16 住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.80 m、短軸 0.88 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15cm である。

出土遺物（第 31 図、図版 13）

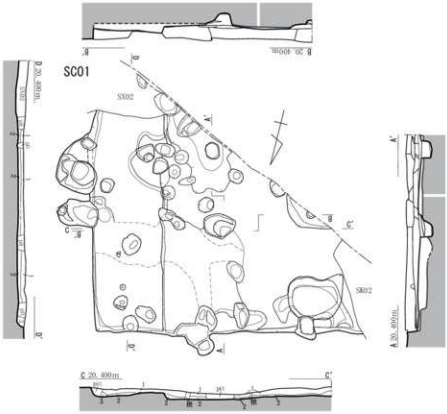
土器は小片のみで、図化していない。第 31 図 2 は砥石で、3 面を砥面として使用している。

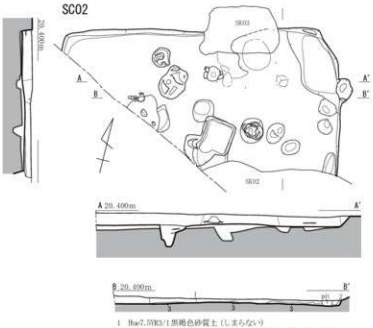
25 号住居跡（第 10 図）

調査区中央部付近に位置し、標高は 20.3 m を測る。東側大部分が調査区外に延び、南側を 5 号溝状遺構に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 2.94 m、短軸 0.88 m を測り、床面は遺構検出面から深さ 33cm である。貼床は検出できていない。なお、遺構の性格は、住居跡ではなく、土坑の可能性がある。

出土遺物

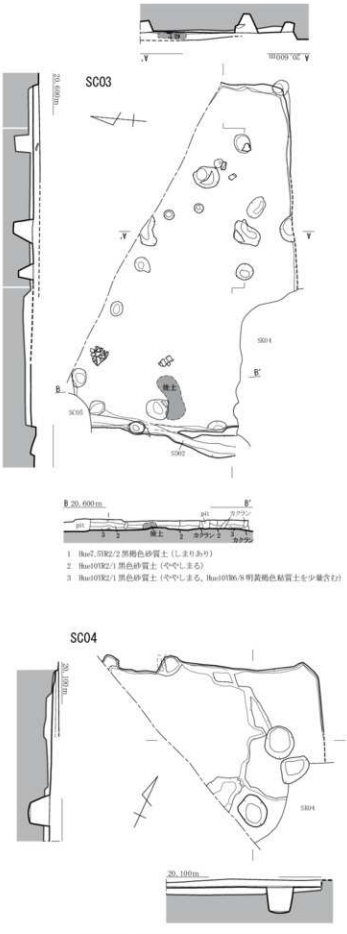
出土土器は小片のみで、図化していない。



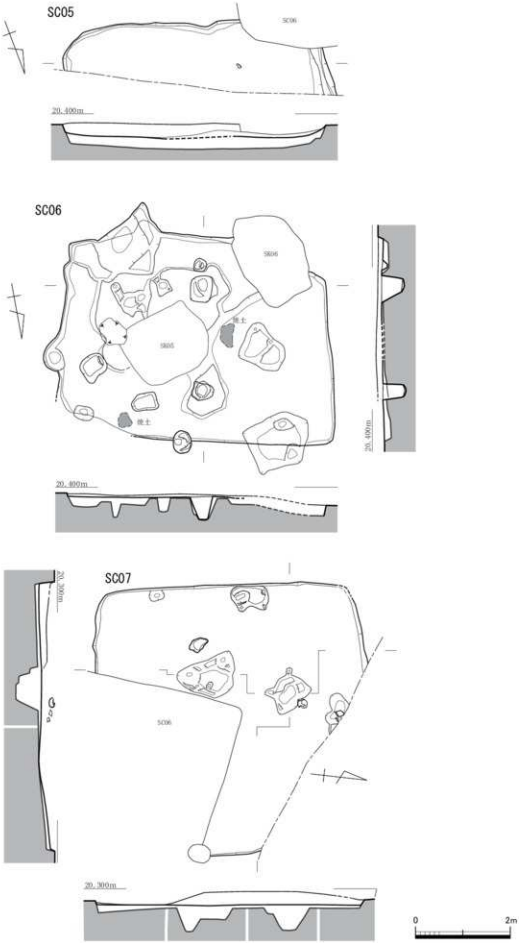


0 2m

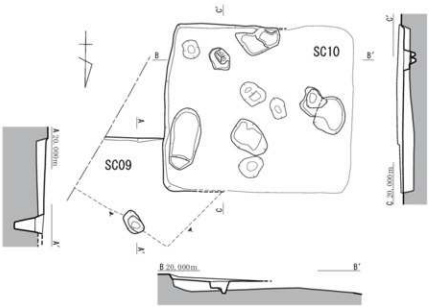
第４図　１・２号住居跡実測図（S=1/80）

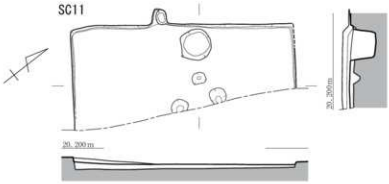


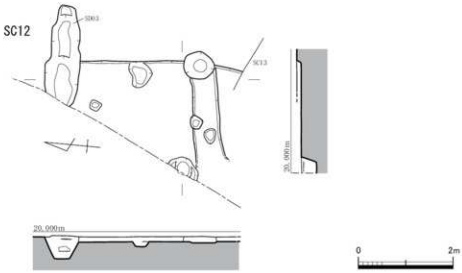
第５図　３・４号住居跡実測図（S=1/80）



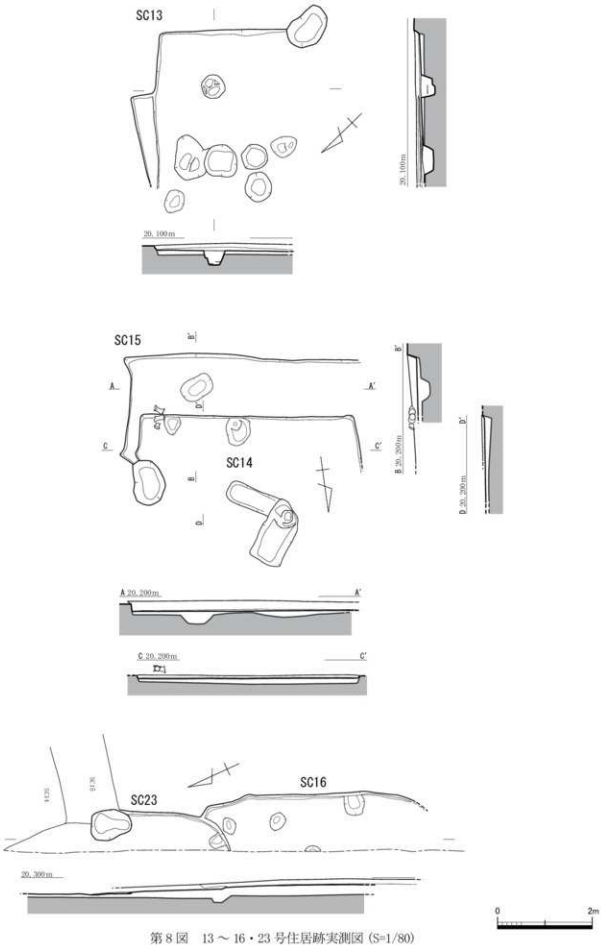
第6図　5～7号住居跡実測図（S=1/80）



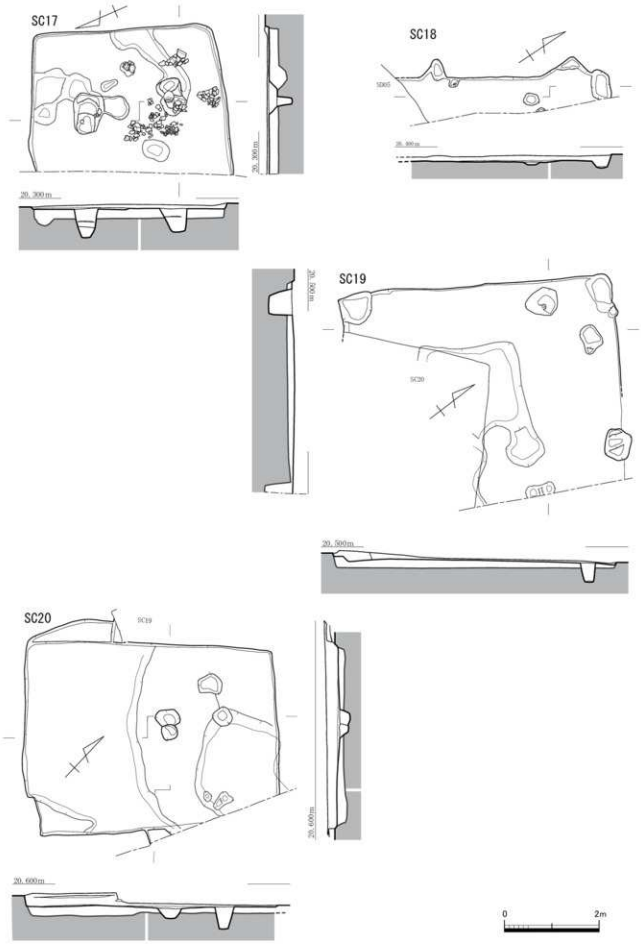




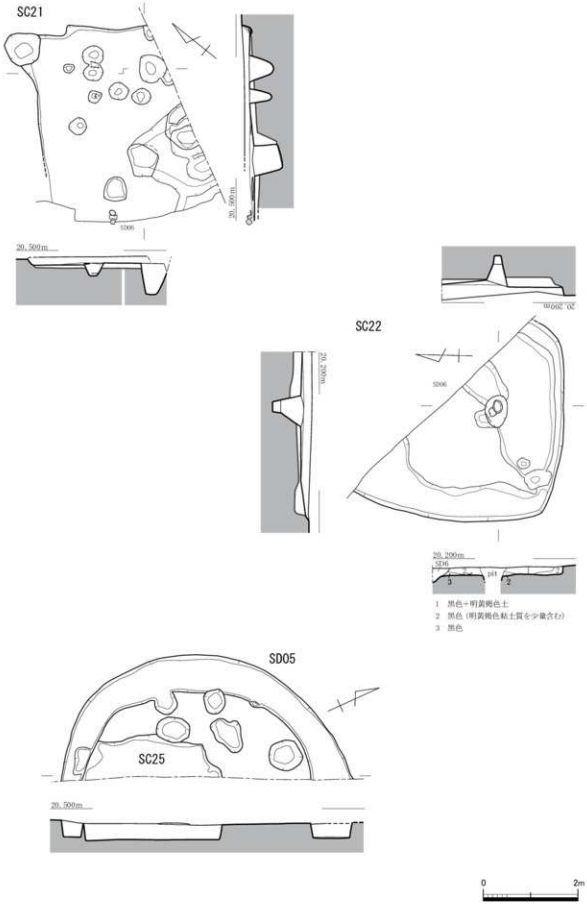
第7図　9～12号住居跡実測図（S=1/80）



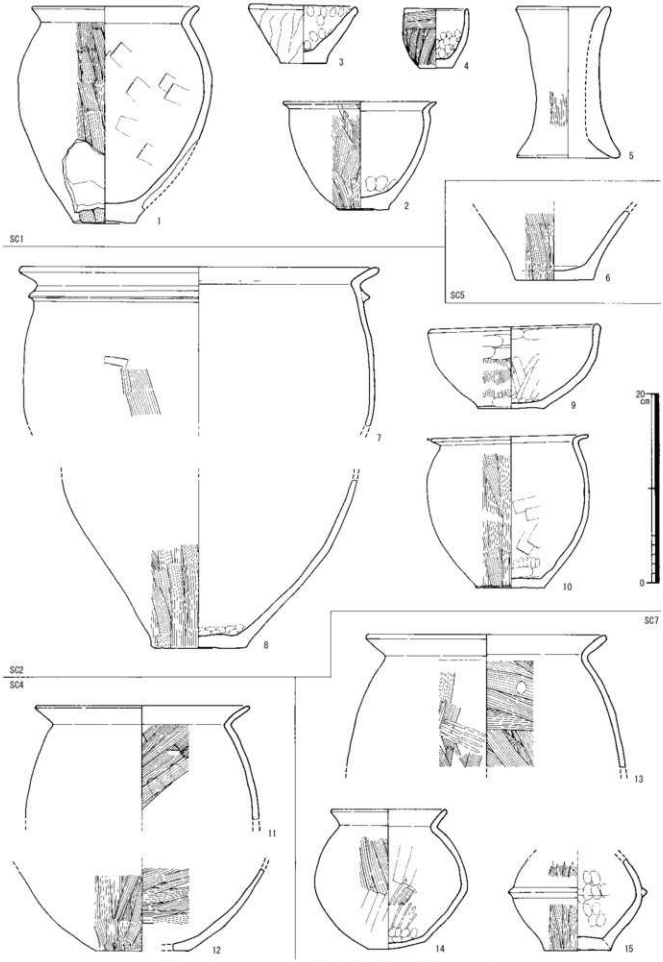
第８図　13～16・23号住居跡実測図（S=1/80）



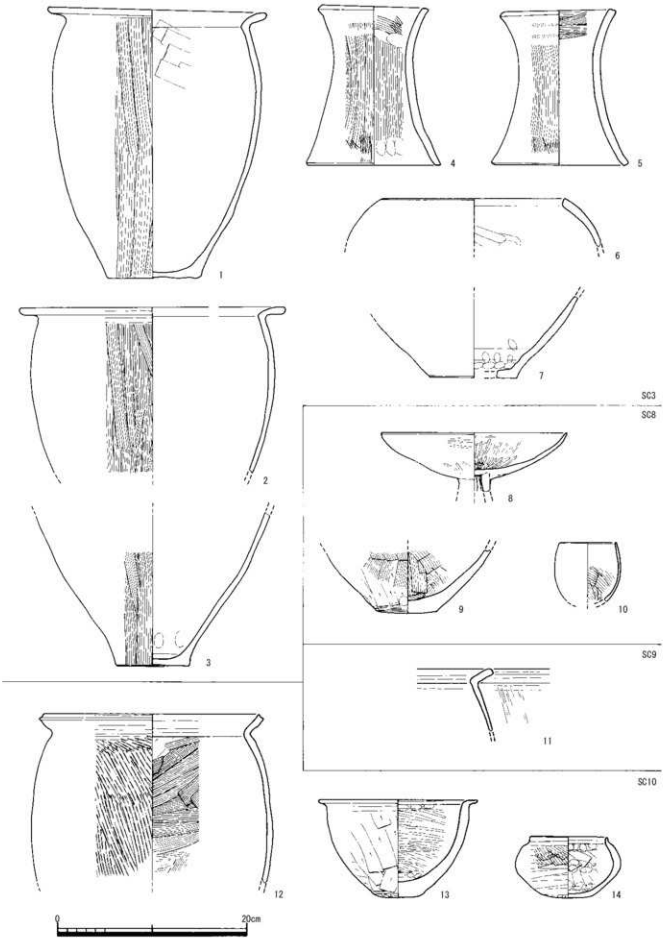
第 9 図　17 ～ 20 号住居跡実測図 (S=1/80)



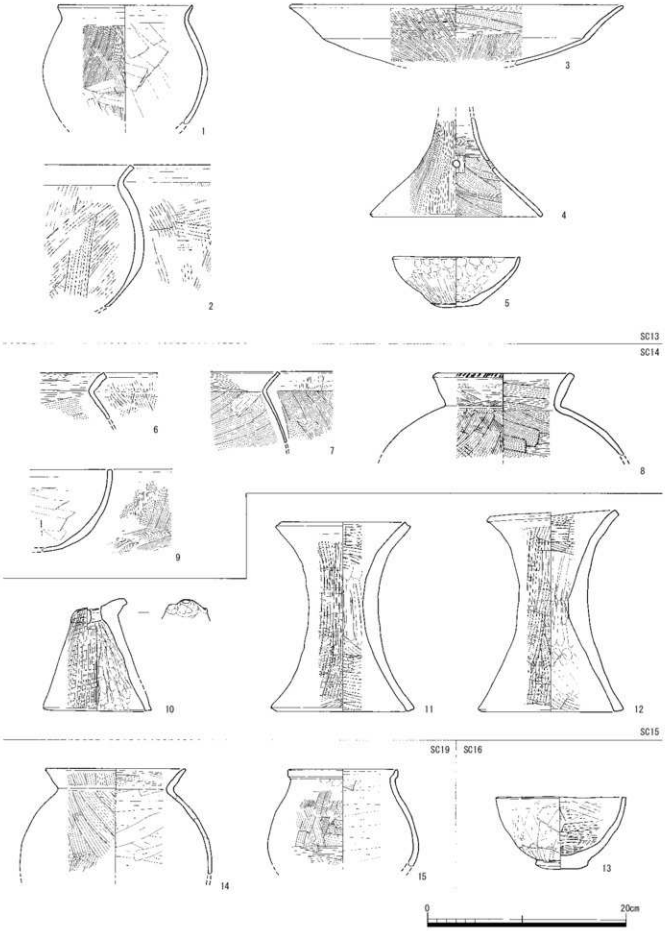
第 10 図　21・22・25 号住居跡・5 号溝状遺構実測図 (S=1/80)



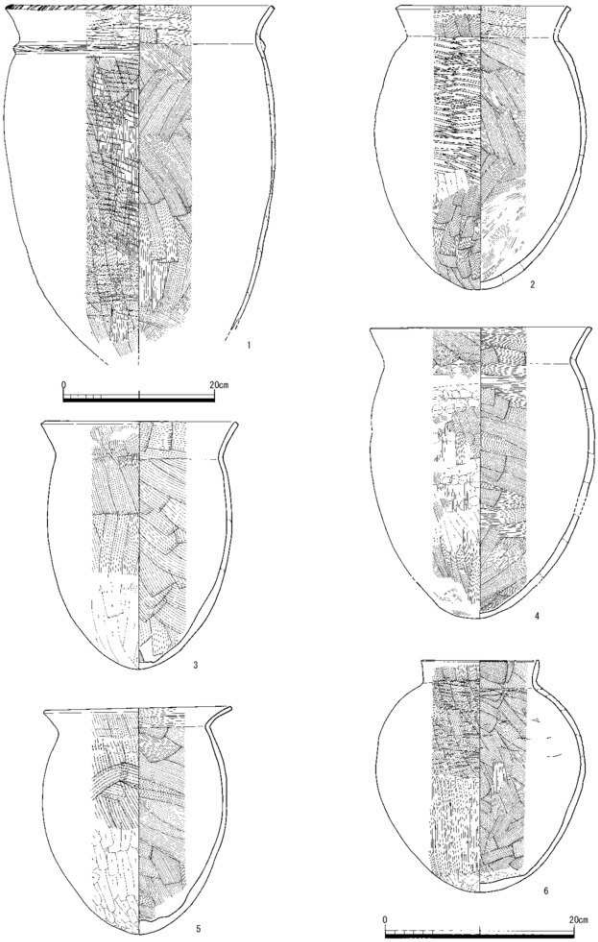
第11図　1・2・4・5・7号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



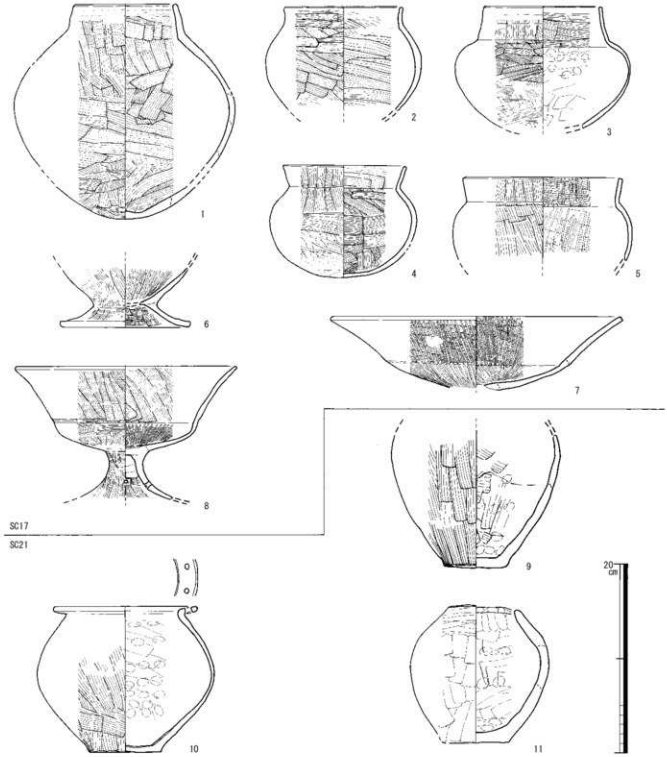
第12図　3・8～10号住居跡出土土器実測図（S=1/4）



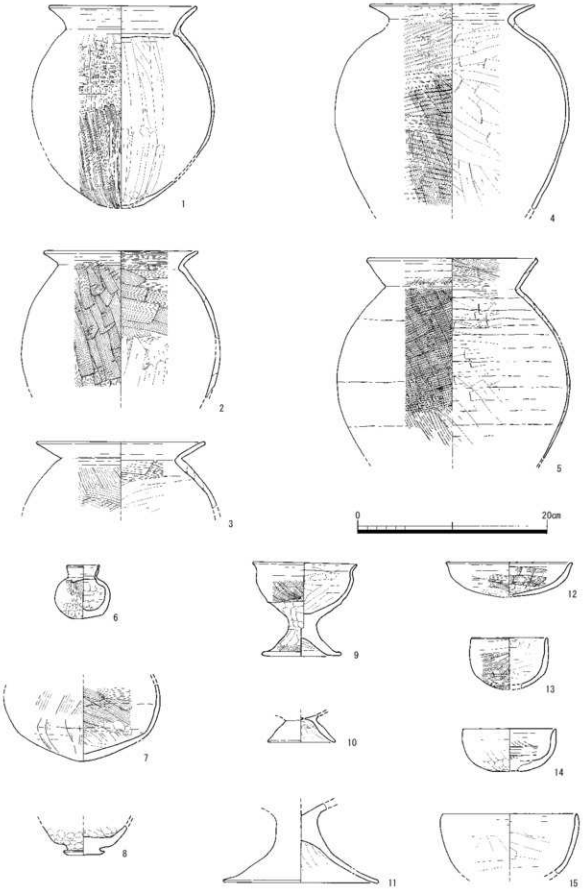
第13図　13・14～16・19号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



第 14 図　17 号住居跡出土土器実測図（1 は S=1/5、他は S=1/4）



第15図　17・21号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



第 16 図　20 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)

2．土坑

1号土坑（第3図）

調査区北東隅部に位置し、標高は20.2 mを測る。規模は、長軸1.83 m、短軸1.27 mを測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物（第19・29図、図版12）

第19図1は甕の口縁部小片、2は壺の底部である。第29図7は台石で、現状の長さ12.5 cmを測る。8は磨石で、長さ11.4 cmを測る。

2号土坑（第17図、図版6）

調査区北東部に位置し、標高は20.0 mを測る。南側大部分は調査区外に延び、東側は1号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長軸5.94 m、短軸1.71 mを測る。床面にはピットが多く、凹凸も多いが、深さは最大63cm である。

出土遺物（第19図、図版10）

第19図5は小型の甕で、復元口径15.8 cm、器高14.9 cmを測る。口縁部は緩やかに外反する。

3号土坑（第18図、図版6）

調査区北東部に位置し、標高は20.3 mを測る。2号住居跡を切る。規模は、長軸1.70 m、短軸1.01 mを測り、深さは37 cmである。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

4号土坑（第17図、図版6）

調査区北部に位置し、標高は20.0 mを測る。南側は一部調査区外に延び、北側は3号住居跡を、西側は4号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長軸4.44 m、短軸3.65 mを測る。床面は比較的平坦だが、小型のピットを多く検出した。深さは最大17cm である。

出土遺物（第19図）

第19図7は大型の甕で、復元口径30.0 cm、復元胴部最大径50.1 cmを測る。11は鉢で、復元口径12.6 cmを測る。12は高坏の坏部小片である。

5号土坑（第18図、図版6）

調査区北部に位置し、検出面の標高は20.1 mを測る。遺構全体を6号住居跡に切られる。規模は、長軸1.98 m、短軸1.46 m、深さ86 cmを測る。

出土遺物（第20図）

第20図1は甕で、復元口径28.8 cmを測る。2は弥生土器の把手で、器種は不明である。

6号土坑（第18図）

調査区北部に位置し、検出面の標高は20.1 mを測る。6号住居跡を切る。規模は、長軸2.04 m、短軸1.42 m、深さ76 cmを測る。出土遺物はない。

7号土坑（第18図、図版6）

調査区北部に位置し、標高は20.0 mを測る。東側は一部調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長軸3.02 m、短軸1.41 mを測る。床面は二段掘りになっており、深さは最大120cm である。

埋土中位を中心に大量の遺物が出土した。

出土遺物（第 21 ～ 24・29・32 図、図版 10・11・12）

第 21 図 1・2 は甕の蓋である。1 は口径 30.5 ㎝、器高 10.6 ㎝を測る。3 から 5 は樽型の甕である。口径は 25.3 ～ 26.2 ㎝、器高は 24.7 ～ 27.9 ㎝を測る。第 21 図 6 から第 22 図 2 は甕である。口径は 29.8 ～ 33.5 ㎝、器高は 35.7 ～ 38.4 ㎝を測る。第 22 図 3 から 6 は壺で、4 は口径 31.8 ㎝、器高 29.6 ㎝を測る。3・6 は丹塗土器で、頸部内面に丁寧なミガキを施す。第 23 図 1 はミニチュア土器の壺で、丹塗土器である。2 から 6 は短頸壺で、口径は 12.3 ～ 18.0 ㎝、器高は 10.7 ～ 15.8 ㎝を測る。4 は、口唇部に穿孔 2 つ × 2 か所が施される。7 は鉢で、口径 15.6 ㎝、器高 8.3 ㎝を測る。8 ～ 10 は支脚、11 ～ 13 は器台である。第 24 図 1 ～ 4 は高坏で、いずれも丹塗土器である。口縁部上面に暗文を施す。第 29 図 6 は磨石で、長さ 12.8 ㎝を測る。第 32 図 5 は不明土製品で、長さ 3.4 ㎝を測る。非常に細い穿孔を施す。

8 号土坑

8 号土坑は、調査時は単独の土坑としていたが、整理段階で 21 号住居跡の下層遺構と位置付けた。

出土遺物（第 20 図、図版 10）

第 20 図 4 はミニチュア土器である。口径 7.3 ㎝、器高 5.7 ㎝を測る。5 と 7 は高坏で、いずれも丹塗土器である。口縁部上面に暗文を施す。

3．溝状遺構

1 号溝状遺構（第 3 図、図版 6）

調査区北東部に位置し、標高は 20.0 m を測る。規模は、長さ 4.37 m以上、幅 0.85 m を測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

2 号溝状遺構（第 5 図）

調査区北東部に位置し、標高は 20.3 m を測る。東側を 3 号住居跡に、南側を 4 号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長さ 3.06 m、幅 0.46 m、深さ 22㎝を測る。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

3 号溝状遺構（第 7 図）

調査区中央部付近に位置し、標高は 19.9 m を測る。西側は調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長さ 2.22 m、幅 0.74 m、深さ 43㎝を測る。

出土遺物（第 26・29 図、図版 12）

第 26 図 3 は甕で、復元口径 29.8 ㎝を測る。口縁部上面に施文が見られる。第 29 図 2 は石庖丁で、現状で長さ 8.6 ㎝を測る。穿孔を 2 か所施す。

4 号溝状遺構（第 3 図）

調査区中央部付近に位置し、標高は 19.9 m を測る。東側は調査区外に延び、西側は 12 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長さ 4.68 m、幅 1.08 m を測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

5号溝状遺構（第10図、図版7）

調査区中央部付近に位置する周溝状遺構で、標高は20.3 mを測る。東側は調査区外に延び、25号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長さ6.40 m、幅2.57 mを測り、溝は最大幅79 ㎝、深さ32㎝である。内部にピット群を確認したが、遺構に伴うかどうかは不明。

出土遺物（第26図）

第26図1は土師器の甕、2は弥生土器の甕である。

6号溝状遺構（第25図、図版7）

調査区南端部に位置し、標高は20.1 mを測る。東西ともに調査区外に延びる直線的な溝である。遺構の北側は21号住居跡と、南側は22号住居跡と切り合い関係にあるが、土層観察により、①22号住居跡、②6号溝状遺構（古段階）、③21号住居跡、④6号溝状遺構（新段階）の順となることが把握できた。遺構の長さは現状で7.57 mで、幅は古段階が3.38 m、新段階が2.73 m、深さは古段階が1.21 m、新段階が0.88 mを測る。

出土遺物（第27・28・32図、図版11）

第27図は上層出土土器である。1は甕で、復元口径29.4 ㎝、器高33.3 ㎝を測る。2は樽型の甕で、口径23.3 ㎝、器高25.6 ㎝を測る。4は小型の壺で、口径8.7 ㎝、器高9.8 ㎝を測る。5･6は短頸壺で、6は丹塗土器である。8は筒形器台だが一般的な形状でなく、受部まで直線的に立ち上がる。受部径は12.9 ㎝を測る。第28図1～6は下層出土土器で、3は筒形器台である。復元鍔部径25.8 ㎝を測り、上部には暗文を施す。第28図7～10は、出土層位不明の土器である。7は甕で、復元口径30.8 ㎝、器高37.2 ㎝を測る。第32図4は土製投弾で、長さ3.5 ㎝を測る。

4．不明遺構

1号不明遺構（第3図、図版7）

調査区北東端部に位置し、標高は20.2 mを測る。北側・東側とも調査区外に延び、遺構の形状や規模は不明である。

出土遺物（第26図）

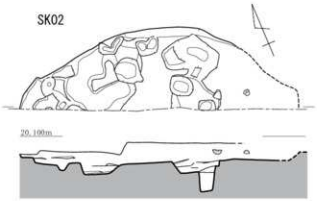
第26図5は弥生土器の甕、6は土師器の甕である。

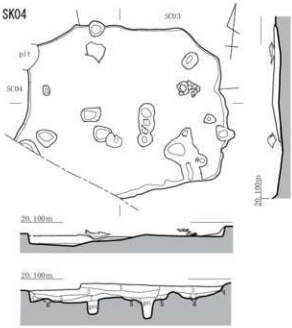
2号不明遺構（第3図、図版7）

調査区北東端部に位置し、標高は20.2 mを測る。南側・東側とも調査区外に延び、遺構の形状や規模は不明である。

出土遺物（第26図）

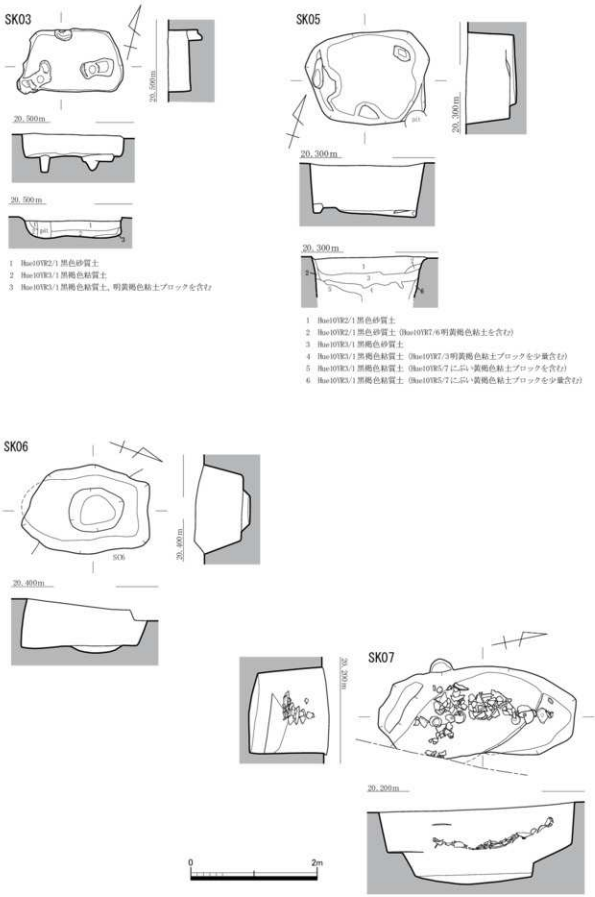
第26図7は小型丸底壺で、復元口径11.9 ㎝を測る。8はやや大型の器台である。



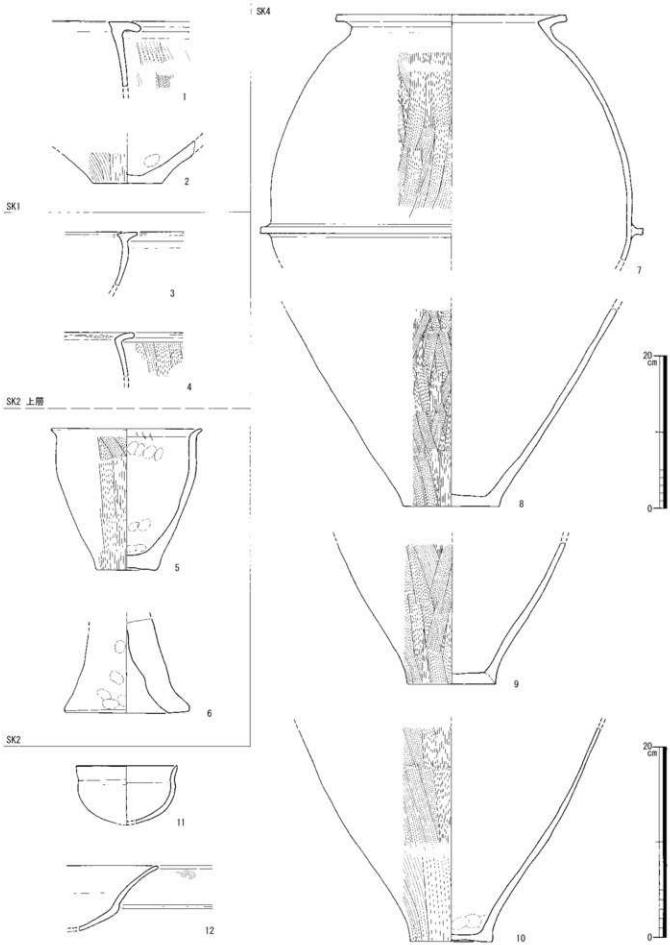


1　Hue10YR3/1 黒褐色砂質土（しまらない）
2　Hue10YR3/2, 黒褐色砂質土（しまりあり）
3　Hue10YR2/1 黒色砂質土
4　Hue10YR3/1 黒褐色粘質土（Hue10YR5/1 に近い黄褐色粘土を含む）
5　Hue10YR3/1 黒褐色砂質土（しまりあり）
6　Hue10YR3/2 黒褐色粘質土（Hue10YR7/6 明黄褐色粘土を含む）
7　Hue10YR3/2 黒褐色粘質土（しまりあり）
8　Hue10YR2/1 黒色砂質土

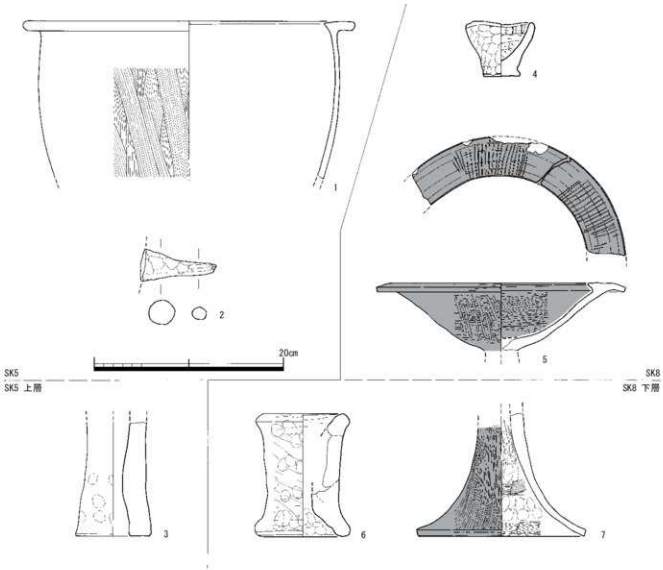
第 17 図　2・4 号土坑実測図 (S=1/80)



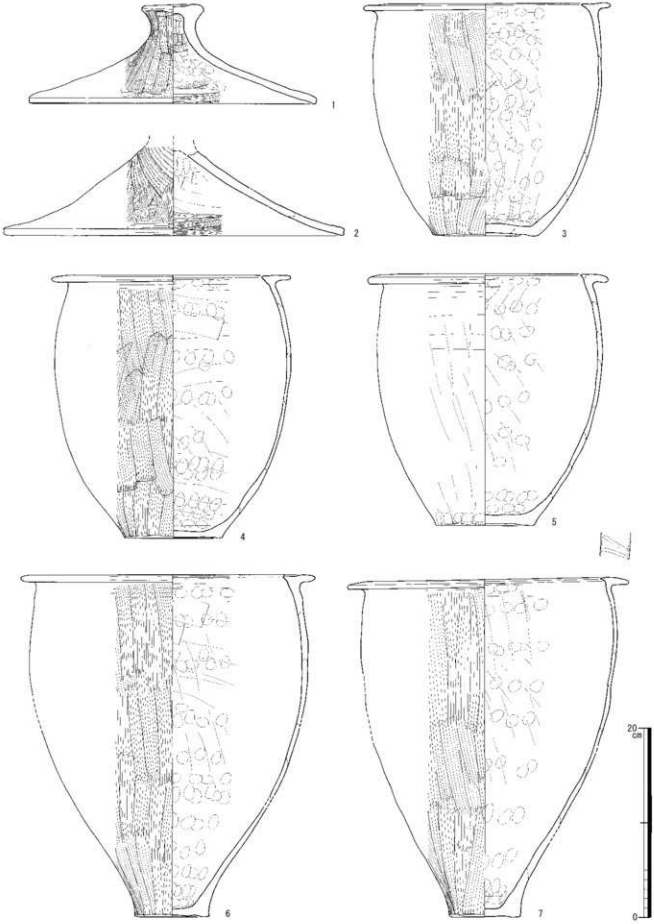
第18図　3・5～7号土坑実測図（S=1/60）



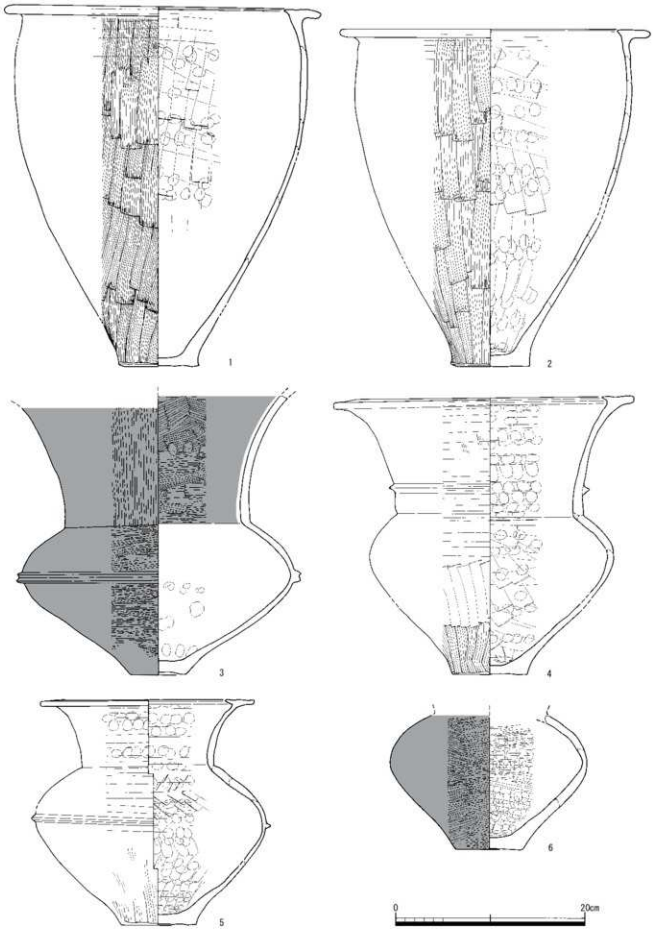
第19図　1・2・4号土坑出土土器実測図（7・8はS=1/5、他はS=1/4）



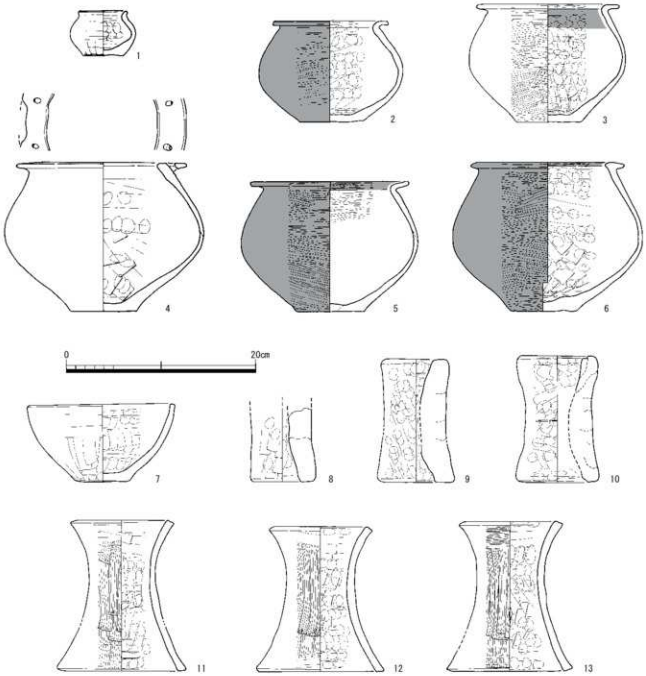
第 20 図　5・8 号土坑出土土器実測図 (S=1/4)



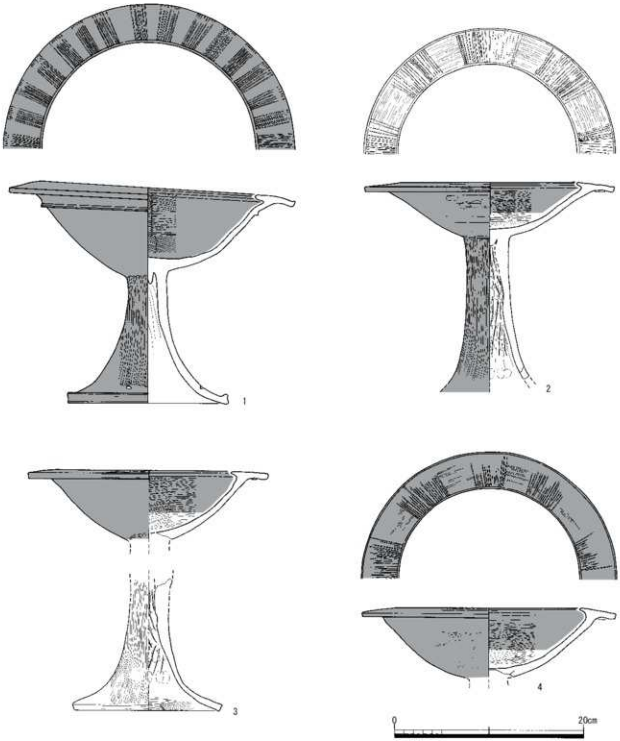
第 21 図　7 号土坑出土土器実測図① (S=1/4)



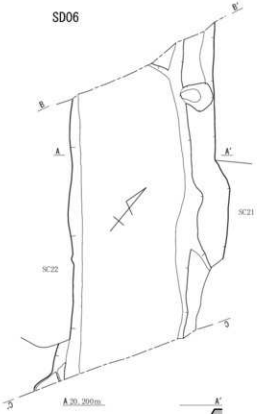
第 22 図　7 号土坑出土土器実測図② (S=1/4)



第 23 図　7 号土坑出土土器実測図③ (S=1/4)



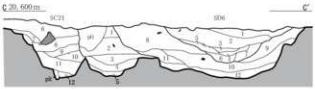
第 24 図　7 号土坑出土土器実測図④ (S=1/4)



〈西壁〉

1 Hue10YR2/1 黒色土
2 Hue10YR2/1 黒色土（Hue10YR5/4にぶい黄褐色を少量含む）
3 Hue10YR2/1 黒色土（10YR5/4にぶい黄褐色を中量含む）
4 Hue10YR2/1 黒色土（しまりあり）
5 Hue10YR2/1 黒色土（しまりなし）
6 Hue10YR2/1 黒色土
7 明黄褐色粘土粒含む
8 明黄褐色粘土粒含む
9 Hue10YR2/3 黒褐色粘土
10 Hue10YR2/3 黒褐色粘土（礫を含む）
11 Hue10YR2/3 黒褐色粘土（焼土を少量含む）
12 Hue10YR2/1 黒色粘質土
13 Hue10YR4/2 黄褐色粘質土を含む

〈東壁〉



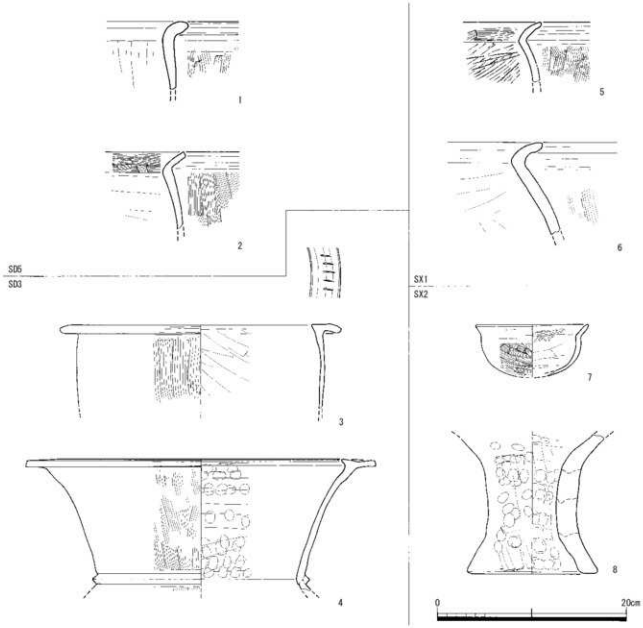
【SC21 下層】

1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
2 Hue10YR2/1 黒色砂質土（しまりあり）
3 Hue10YR2/3 黒褐色砂質土
4 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土
5 Hue10YR2/1 黒色粘質土（明黄褐色粘土ブロックを含む）
6 Hue10YR2/1 黒色砂質土
7 Hue10YR2/1 黒色砂質土（ややしまる）
8 Hue10YR2/1 黒色砂質土（礫を含む）
9 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土
10 Hue10YR5/2 黒褐色粘質土
11 Hue10YR2/1 黒色粘質土
12 Hue10YR2/1 黒色粘質土（明黄褐色粘土ブロックを含む）

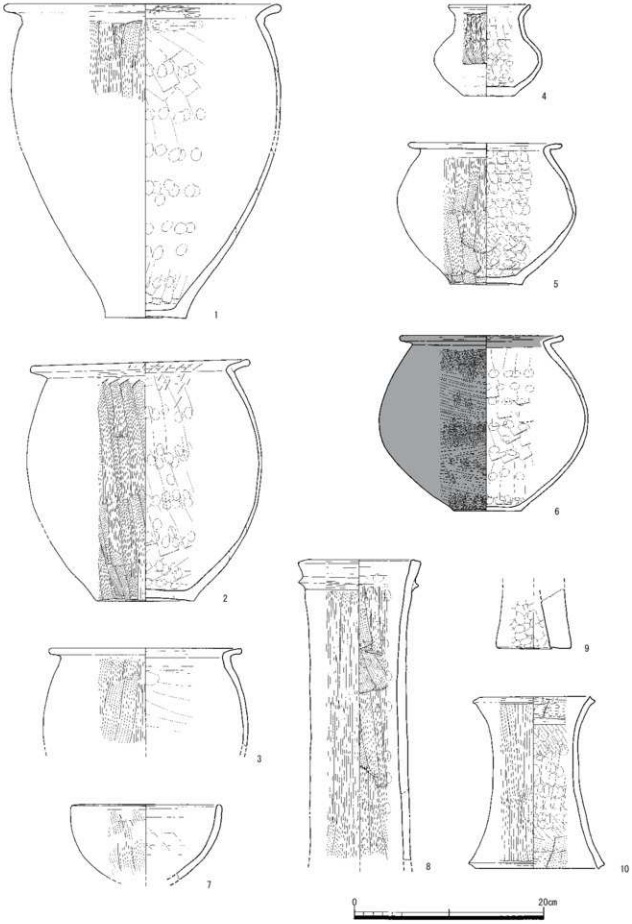
【SD06】

1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
2 Hue10YR2/1 黒色砂質土（しまりあり）
3 Hue10YR2/1 黒色砂質土（にぶい黄褐色粘土を少量含む）
4 Hue10YR2/1 黒色粘質土（にぶい黄褐色粘土を含む）
5 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土
6 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土（しまりあり）
7 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土（にぶい黄褐色粘土を含む）
8 Hue10YR 黒色粘質土
9 Hue10YR 黒色粘質土（しまりあり）
10 Hue10YR 黒色粘質土（砂を含む）
11 Hue10YR 黒色粘質土（にぶい黄褐色粘土を含む）
12 Hue10YR 黒色粘質土（にぶい黄褐色粘土を多く含む）

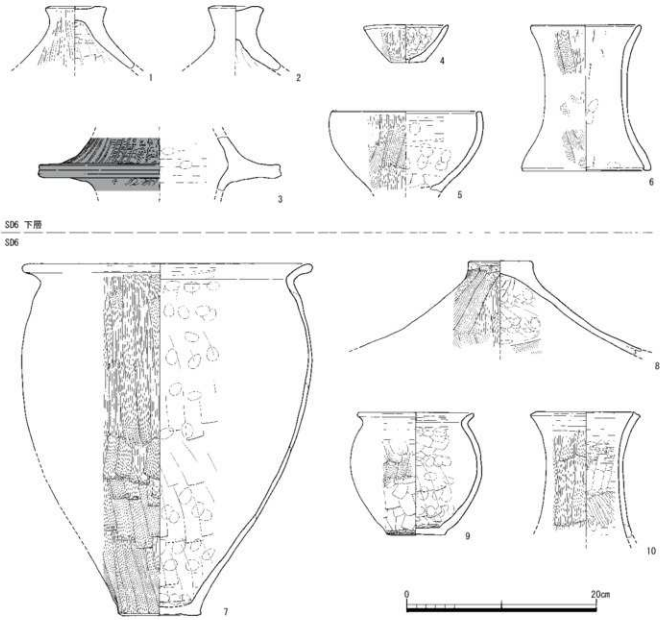
第 25 図　6 号溝状遺構実測図（S=1/80）



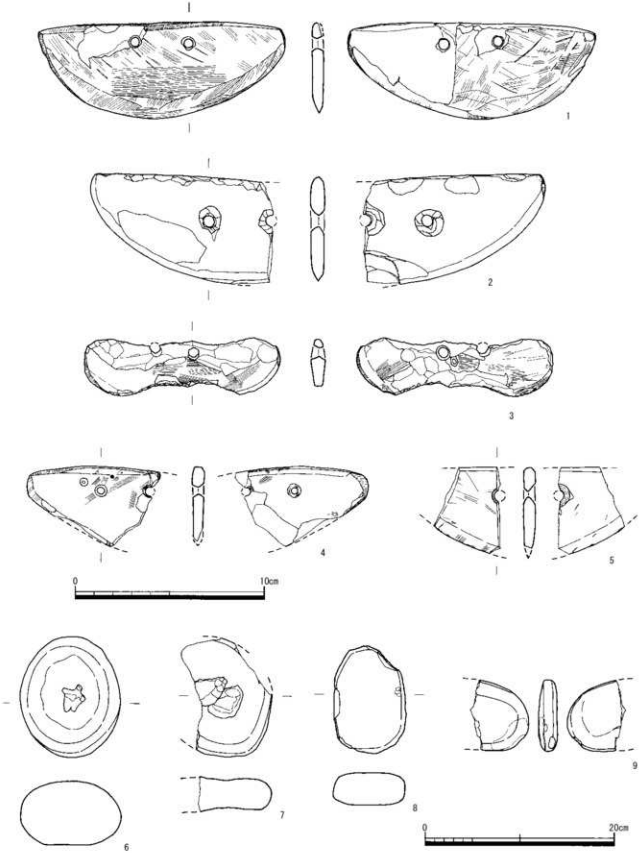
第 26 図　3・5 号溝状遺構・1・2 号不明遺構出土土器実測図 (S=1/4)



第 27 図　6 号溝状遺構出土土器実測図① (S=1/4)



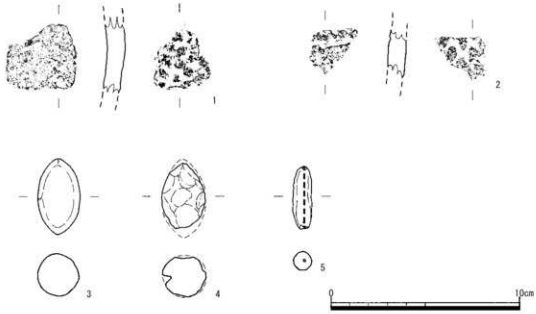
第 28 図　6 号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4)



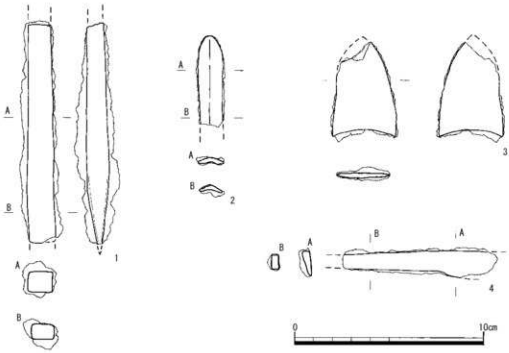
第 29 図　出土石器実測図① (1 ～ 5 は S=1/2、6 ～ 9 は S=1/4)

第 30 図　出土石器実測図② (S=1/2)

第 31 図　出土石器実測図③ (S=1/4)



第 32 図　出土縄文土器・土製品実測図 (S=1/2)



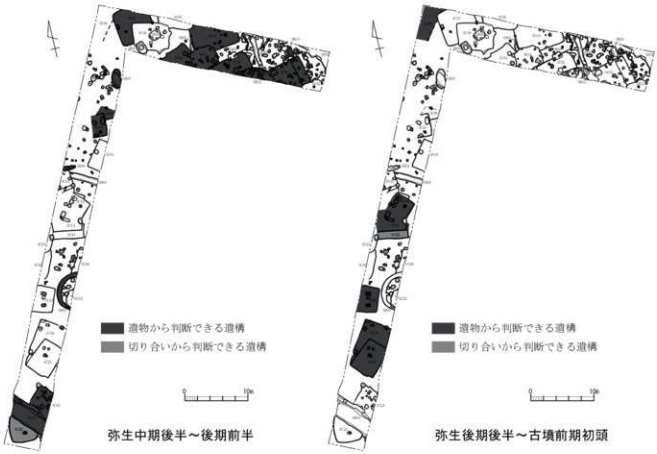
第 33 図　出土鉄製品実測図 (S=1/2)

第４章　まとめ

横隈上ノ原上遺跡５では、弥生時代中期中頃に５号土坑が出現し、中期後半以降になると多くの遺構が確認できる。中心となるのは、調査区北部の住居跡７軒（1・2・3・4・7・9・10 号住居跡）と大型の土坑２基（2･4 号土坑）、及び祭祀土坑１基（7 号土坑）で、調査区南部には周溝状遺構（5 号溝状遺構）も存在する。住居跡の多くが長軸を略東西方向に取り、遺構の切り合いは激しい。出土遺物からも３～４段階に分けることができ、後期前半まで比較的安定した集落活動が展開されたものと考えられる。

この時期の注目される遺構に、調査区南端付近で検出した６号溝状遺構がある。これは、３次調査で確認された１号溝状遺構と同一のものと考えられ、長さ 75 m以上に渡り、この集落のある低台地を区画するものと考えられる。３次調査においても、今回の調査でも掘り直しが確認されており、住居跡群と同様に、比較的長期間使用された区画溝であった。なお、３次調査では、この溝の南側では、同時期の遺構は確認されていない。また、今回の調査区から道路を挟んだ南側で実施した６次調査（令和３年度実施）でも、遺構がほとんど確認されていない。つまり、この大型の溝は、弥生時代中期後半から後期前半に展開した集落の南限を示すものである可能性が指摘される。

弥生時代後期中頃には集落の空白期が生じるものの、後期後半になると再び集落活動が活発化する。この時期の住居跡は調査区中央から南部を中心に分布し（8・12・14・15・17・19・20 号住居跡）、主軸方位を略北東－南西方向に取る。当集落の最後の遺構となるのは 20 号住居跡で、古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



第 34 図　横隈上ノ原上遺跡５遺構変遷図（S=1/600）

表1　横隈上ノ原上遺跡5　出土土器観察表

法量＝口：口縁　胴：最高　底：底径　脚：脚部径　縁：縁部径　鼎脚：脚部最大径　天：天井部径　蓋：蓋部径　受：受部径

出土遺構	検出面番号	図版番号	器種	法量(cm)・(現元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SC1	11-1	8	弥・壺	口:17.7 底:6.6 高:23.0	内:淡黄橙色 外:上:淡黄橙色 外:下:黒褐色	石英・金雲母・角閃石を含む	良	内ナデ　口ヨコナデ　外ヘラ削ハケ　外ヘラ 底ナデ	胴下半2箇所穿孔
	2	8	弥・壺	口:16.2 底:7.8 高:11.5	内:淡黄橙色 外:黄橙色	石英・金雲母・角閃石を含む	良	内ナデ　口ナデ　外ハケ目　底ナデ	底部に植物痕
	3	8	弥・鉢	口:11.9 底:4.8 高:6.5	内:黒色 外:淡黄橙色	金雲母を多く含む 石英・長石・角閃石を含む	良	内ナデ　外ナデ	
	4	8	弥・杯	口:6.7 底:3.4 高:4.3	内:黄橙色 外:淡黄橙色	石英・角閃石・金雲母を多く含む	良	内ナデ　口ナデ　外タテハケ・ヨコハケ	外面底部～胴部下半に黒斑
	5	8	弥・器台	口:9.9 底:10.0 高:16.0	内:橙色 外:橙色	石英・金雲母・石閃石を含む	良	内ナデ　外・上ナデ　外・下ハケ目後ナデ消し	
SC2	11-7		弥・壺	口:(37.8)	内:淡黄橙色 外:にぶい黄橙色	粗い 3mm大の石英、黒雲母、赤色粒子を含む	良	内ナデ　口～突帯:ヨコナデ　外・胴ハケ目ナ	口縁～突帯:ヨコナデ　外・胴ハケ目ナ
	8		弥・壺	底:10.0	内:淡黄色 外:淡黄橙色	粗い 2mm大の石英、長石、黒雲母を含む	良	内ナデ　外ハケ目　底ナデ	
	9	8	弥・鉢	口:17.6 底:7.0 高:9.0	内:淡黄橙色 外:淡黄橙色	非常に粗い 3～4mm大の石英、長石を非常に多く含む	やや不良	内ナデ　口ヨコナデ　外・下:ハケ目後ヨコナデ　底ナデ	
	10	8	弥・壺	口:16.7 底:7.2 高:16.3	内:黄橙色 外:黄橙色	3～4mm大の石英を含む	良	内ナデ　口ヨコナデ　外ハケ目　底ナデ	外面口縁～頸部の一部に黒斑 内面口縁～頸部の一部にコゲ
SC3	12-1	8	弥・壺	口:22.0 底:9.4 高:38.8	内:黄橙～褐灰～黒褐色 外:黒褐色	良 2～3mm大の石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ　口ヨコナデ　外ハケ目　底ナデ	外面にススス
	2		弥・壺	口:(28.2)	内:褐灰色 外:灰褐色	石英・金雲母を含む	良	内ナデ　口ヨコナデ　外ハケ目	外面の一部にコゲ
	3		弥・壺	底:7.6	内:にぶい黄橙色 外:黄橙色	石英・金雲母・長石を含む	良	内ナデ　外ハケ目　底ナデ	2の口縁部と同一個体か
	4	8	弥・器台	受:6.4 底:9.0 高:6.9	内:淡黄橙色 外:淡黄橙色	石英・金雲母・長石を含む	良	受・底:ハケ目後ヨコナデ　外ハケ目(一部ナデ消し)	内面にススス
	5	8	弥・器台	受:12.2 底:13.7 高:16.2	内:灰白色 外:淡黄色	石英・金雲母・長石を含む	良	内ハケ目後ナデ消し　外ハケ目	内面の一部にコゲ
	6		弥・壺	口:(9.8)	内:灰白色 外:淡黄色	2.5mm大の石英、黒雲母、長石を含む	良	内ナデ　口ヨコナデ	
	7		弥・壺	底:9.2	内:淡黄色 外:淡黄～黒色	2mm大の石英、1mm以下の長石、黒色粒子を含む	良	内ナデ　外ナデ　底ナデ	底部に黒斑
SC4	11-11		弥・壺	口:(22.4)	内:灰白～淡黄橙色 外:太部分が黒色、両端が灰白色	石英、金雲母、角閃石を含む	やや不良	口ヨコナデ　内・胴ハケ目	外面全体に黒斑
	12		弥・壺	底:(9.8)	内:灰白色 外:褐灰～黒褐色	全体的に粗い 石英、角閃石、赤色粒子を含む	やや良	内ハケ～ナデ　外ハケ　底ナデ	
SC5	11-6		弥・壺	底:(8.2)	内:褐灰色 外:橙色	1～4mm大の長石、石英を含む	良	内ナデ　外ハケ　底ナデ	
SC7	11-13		弥・壺	口:(25.2)	内:褐灰色 外:にぶい黄橙色	石英、金雲母を多く含む	良	ロナデ　外・胴ハケ(部分的にヨヨヨの痕跡が残る)　内・胴ハケ	外面に黒斑
	14		弥・壺	口:12.0 高:14.9	内:黄橙色 外:淡黄橙色	石英、角閃石、金雲母を含む	良	内・胴:ナメ'リ(ヨヨヨの痕跡あり)　ロナデ　外・胴:上ハケ目　外・胴・下ナデ'ナメ'リ　底ナデ	外面の一部に黒斑 内外面の一部にススス
P1	15	8	弥・壺	底:7.0	内:灰白色 外:淡黄色	金雲母、石英、角閃石を含む	良	内ナデ　外ハケ目　底ナデ	外面に黒斑
SC8	12-8		弥・高杯	口:(19.6)	内:橙～橙色 外:橙～橙色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	口ヨコナデ　体・内外ヘラ方ケキ　脚・内:未調整　脚・外:ヨコナデ	
底	9		弥・壺	底:8.5	内:にぶい黄橙色 外:にぶい橙～淡黄橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目後ナデ　外ヘケタメ'リ後ハケ目　底ナデ	底部に植物圧痕
	10		弥・鉢	口:(9.1) 鼎:(7.0)	内:淡黄色 外:灰白～灰色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・体:ハケ目	体部内面下位に黒色付着物 体部外面に黒色斑刺痕付
SC9 P4	12-11		弥・壺		内:灰白色～灰白色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	口ヨコナデ	
SC10 P4	12-12		弥・壺	口:(23.7)	内:橙色 外:にぶい橙色	やや粗	良	内:板状工具ナデ後ハケ目　口ヨコナデ　外ハケ目	口縁部内面～体部内面にコゲ 頸部外面～体部外面上位にススス
	13	8	弥・鉢	口:(16.8) 底:(5.4) 高:10.4	内:淡黄橙～灰黄褐色 外:淡黄橙～にぶい黄橙色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ヘケタメ'リ　口:ヨコナデ　外ヘケタメ'リ後ナデ	体部外面に黒斑 底部外面に種子圧痕か？
P1	14	8	弥・壺	口:(8.2) 底:5.4 高:6.5 鼎脚:(1.1)	内:にぶい橙～にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ナデ、上半はその後板状工具ナデ　口:ヨコナデ　外:ヨコナデ、上半はその後ハケ目　底ヘケタメ'リ	
SC13	13-1		弥・壺	口:(14.2) 鼎脚:(17.4)	内:にぶい黄橙色 外:淡黄橙～にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:板状工具ナデ後ナデ　口ヨコナデ 外:板状工具ナデ後ハケ目	口縁部外面～体部外面中位に黒斑
	2		弥・壺		内:淡黄橙色 外:淡黄橙～灰白色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目　口・外:ヨコナデ　外ハケ目	SC14埋土出土片と接合 口縁部外面～体部外面上位に黒斑 体部外面中位にススス
	3		弥・高杯	口:(35.4)	内:にぶい橙色 外:にぶい橙～淡黄橙色	精良 径1mm以下の石英、長石、雲母等をごくわずかに含む	良	内ヨコナデ後ハケ目後暗文 外ハケ目後暗文	4と同一個体
	4		弥・高杯	脚:(18.4)	内:にぶい橙色 外:淡黄橙～にぶい橙色	精良 径1mm以下の石英、長石、雲母等をわずかに含む	良	内ハケ目　脚裾・端:ヨコナデ　外ハケ目後暗文	脚部中位に穿孔一か所(内側から外側に穿孔) 外面下半～裾部端部に黒斑
P3	5	8	弥・鉢	口:(13.5) 高:5.5	内:淡黄橙色 外:淡黄橙色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ナデ　外ナデ　後ハケ目後ナデ　底ナデ	体部外面中位に黒斑
SC14	13-6		弥・壺		内:灰白～淡黄橙色 外:灰白色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目　口:ヨコナデ　外ハケ目後ヨコナデ	口縁部端部に黒斑 外面にススス
	7		弥・壺		内:にぶい黄橙～灰黄褐色 外:灰褐～灰黄褐色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目　口・端:ヨコナデ　外ハケ目	口縁部内面にコゲ 口縁部外面にススス

出土遺構	掲図番号	図版番号	器種	法量cm*（現元値）	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SC14　P1	13-8		弥・壺	ロ(14.9)	内:浅黄橙色 外:浅黄橙～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ　口・端ヨコナデ　頸・外:工具ナデ後ハケ目後ナデ　外:タテ後ハケ目	口唇部に刻目
	9		弥・鉢		内:黄灰色 外:灰黄褐～黄灰色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナデ　口・ヨコナデ　外:ハケ目 底:手持ちヘラケズリ後ハケ目	
SC15	13-10	8	弥・支脚	底11.5 天5.9	内:にぶい橙～灰黄褐色 外:橙～灰黄褐色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヨコナデ　天井・つまみ出しナデ　外:タテ後ハケ目　底:ヨコナデ	内面の約半分とつまみ出し部に黑斑
	11	8	弥・器台	底15.2 高20.1 受(14.2)	内:にぶい黄橙～浅黄橙色 外:浅黄橙～橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目・絞り痕　受～底:ヨコナデ　外:タテ後ハケ目	
	12	8	弥・器台	底(15.4) 高21.4 受(14.0)	内:にぶい黄橙～灰黄色 外:灰白色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:上ハケ目　内・中ナデ・絞り痕 内・下:工具ナデ、ナデ　受～底:ヨコナデ　外:タテ後ハケ目	
SC16　P1	13-13		弥・鉢	ロ(13.8) 底5.6 高7.7	内:灰～黄灰色	粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ハケ目後工具ナデ　口:ヨコナデ　外:ヘラケズリ後ナデ　底:ナデ	
SC17	14-1	9	弥・壺	ロ:35.6	内:浅黄橙～橙色 外:浅黄橙～橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ハケ目　口・端ヨコナデ後ヨタ施文　口・外:ヨタ後工具ナデ後ヨコナデ　体・外:ヘラケズリ後ヨタ　突帯:ヨタ施文	SC19直径・SC20埋土出土土器と接合 外面に黑斑か弁 外面にススス
床面	2	9	弥・壺	ロ(18.5) 高30.1 最胴(22.4)	内:にぶい黄橙色 外:浅黄～にぶい黄橙色	粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ハケ目　口・外:ヨタ後ハケ目　外・上:ヨタ　外・下:ヨタ後ヘラケズリ後ハケ目	内面下位～底部にニガ 外面黑斑か～底部にススス
床面	3	9	弥・壺	ロ(20.8) 高26.2	内:にぶい黄橙～灰黄褐色 外:灰黄褐～にぶい橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口・端ヨコナデ　外・上:ハケ目　外・下:ヘラケズリ後ハケ目	底部内面にニガ 外面にススス 外面下半は二次焼成で器表剥離
床面	4	9	弥・壺	ロ23.4 器台:30.9	内:灰黄褐～灰黄褐色 外:褐灰～灰褐色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口・端ヨコナデ　外・上:ハケ目　外・下:ヘラケズリ後ハケ目	内面下位～底部にニガ 外面にススス 外面下位は二次焼成で赤変
	5	9	弥・壺	ロ20.0 高23.1	内:にぶい黄橙～褐灰色 外:にぶい橙～にぶい橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口・端ヨコナデ　外・上:ハケ目　外・下:ヘラケズリ	内面下位～底部にニガ 外面口縁部～体部中位にススス
	6	9	弥・壺	ロ:12.5 高24.5 最胴22.0	内:にぶい黄橙～橙色 外:にぶい橙～浅黄橙色	やや粗　径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口・端ヨコナデ　口・外:ヨコナデ後ハケ目　外:下半にヘラケズリ後上半はヨタ、その後ハケ目、最胴にヘラガキ	外面口縁部～上位・外面上位～下位に黑斑
	15-1	9	弥・壺	ロ:11.1 高22.8 最胴23.4	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙～灰黄色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口:ヨコナデ後ハケ目　外・上:ハケ目　外・下:工具ナデ後ハケ目	外面中位～下位に黑斑 外面下半にススス
	2		弥・短頸壺	ロ(12.6) 最胴(16.4)	内:にぶい橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口:ヨコナデ　外・中～下:ヘラケズリ後ハケ目	外面中位～下位に薄い黑斑
	3	9	弥・短頸壺	ロ(12.6) 最胴(18.5)	内:にぶい黄橙色 外:橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ、工具ナデ　内・上:ヨコナデ　口・ハケ目後ヨコナデ　外:ヘラケズリ後ハケ目	外面口縁部に黑斑
	4	9	弥・短頸壺	ロ(13.1) 高12.0 最胴(15.6)	内:にぶい橙色 外:にぶい橙～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口:ヨコナデ　外・上:ハケ目 外・中～下:ヘラケズリ後ヘラミガキ:ハケ目:ナデ	外面底部に黑斑
	5	9	弥・短頸壺	ロ(17.0) 最胴19.0	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ後ヘラミガキ　口・内:ハケ目後端文　口・端:ヨコナデ　外:ハケ目	外面に黑斑
	6		弥・台付鉢か？		内:浅黄橙～にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ後ヘラミガキ　頸・外:ヘラケズリ後ハケ目　脚:内ハケ目　脚:端ヨコナデ　脚・外:ヨコナデ後ハケ目	外面脚部下位～脚部上半に黑斑
床面	7		弥・高杯	ロ(31.0)	内:にぶい橙～にぶい黄橙色 外:にぶい橙色	ほぼ密　径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ハケ目後端文　口・端ヨコナデ　外:ハケ目後端文	スリップ塗布
	8	9	弥・高杯	ロ(23.5)	内:橙色 外:明黄褐色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	杯:内:ハケ目後端文　口・端:ヨコナデ　杯・外:ハケ目　脚:内:上:ヨコナデ　脚・内:下:ハケ目　脚:外:ヘラミガキ後ハケ目	脚部中位に外から内へ穿孔4か所 外面～脚部内面に薄い黑斑
SC19	13-14		弥・壺	ロ(14.8)	内:にぶい褐色 外:にぶい橙～にぶい褐色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラケズリ　口:ヨコナデ後ハケ目　外:ハケ目	外面頸部中位に黑斑 外面口縁部～胴部上位にススス
	15	8	弥・壺	ロ(11.7) 最胴(18.0)	内:橙～明褐色 外:明赤褐～にぶい橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラケズリ後ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目	内面口縁部～胴部に黑斑 口縁部端部～外面胴部にススス
SC20	16-1	9	土師器・壺	ロ:15.7 高21.6 最胴19.3	内:にぶい橙色 外:にぶい黄橙～灰黄褐色	やや粗　径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラケズリ　口:ヨコナデ　外・上:ヨタ後ハケ目　外・下:ハケ目後ヨタ後工具ナデ	口縁部端部～外面底部にススス
	2	9	土師器・壺	ロ(16.4) 最胴(21.0)	内:にぶい黄～にぶい黄橙色 外:にぶい褐～灰褐色	やや粗　径5mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・下:ハケ目後ヘラケズリ　内・上:ハケ目　口・内:ハケ目後ヨコナデ　外:ヨタ後ハケ目	外面口縁部～体部にススス
	3		土師器・壺	ロ(17.8)	内:にぶい黄橙～灰黄色 外:にぶい黄橙色	やや粗　径8mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目後ヘラケズリ　口:ヨコナデ　外:タテ後ハケ目	外面上位に黑斑 外面口縁部・胴部上位にススス
	4	9	土師器・壺	ロ(17.5) 最胴24.8	内:にぶい黄橙色 外:にぶい橙～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラケズリ後一部に工具ナデ　頸・内:頸位のヘラケズリ後ナデ　口:ヨコナデ　口・外:部分的にタテ　外:タテ後ハケ目	内面に黑斑 外面胴部にススス
	5	9	土師器・壺	ロ18.2 最胴24.7	内:にぶい黄橙～にぶい橙色 外:にぶい橙～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:斜位のヘラケズリ　内・上:縦位のヘラケズリ後一部に工具ナデ　口・内:ヨコナデ後ハケ目　口:ヨコナデ　外・上:ハケ目後ヨタ　外・下:ハケ目	外面上位に黑斑 内面下位にニガ 外面口縁部・外面胴部中位～下位にススス
	6	9	土師器・ミニチュア土器(壺)	ロ3.3 高5.7 最胴5.7	内:にぶい橙色 外:橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ　口～頸:ヨコナデ　外・上:ハケ目　外・下:手持ちヘラケズリ	外面底部に黑斑
	7	9	弥・壺	内:灰褐～暗赤褐色 外:にぶい橙～橙色	内:灰褐～暗赤褐色 外:にぶい橙～橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・下:ナデ　内・ハケ目　外:ハケ目	外面下位に黑斑
	8		弥・脚付鉢	脚(8.2)	内:浅黄橙色 外:灰白～灰黄褐色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ　外:ナデ	手捏ね土器 外面体部～脚部に黑斑
	9	10	土師器・高杯	ロ(11.0) 高10.0 脚8.4	内:にぶい橙～橙色 外:にぶい橙色	ほぼ密　径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯:内:ナデ　口:ヨコナデ　杯・外:ハケ目　脚・外:ハケ目後ナデ　脚・端:ヨコナデ　脚:内:ナデ	

出土遺構	掲図番号	図版番号	器種	法量cm*（残元値）	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SC20	16-10		土師器・甕形	底7.1	内 橙色 外 橙色	精緻 径1mm以下の石英、長石、雲母等をごくわずかに含む	良	脚・内ナデ	
	11		土師器・高杯	脚16.4	内 橙色 外 橙色	粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	杯・内ハケ目 脚・内・上ナデ	
P4	12		土師器・杯身	口(12.4)	内 橙色 外 橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ヨコナデ 後工具ナデ 後ハケ目 口ヨコナデ 外・上ハケ目 外・下・手持ちヘラケズリ後ハケ目	
	13	10	弥・鉢	口(8.1)	内 橙色 外 橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外・中ナデ 後ハケ目 外・下ヘラケズリ後ハケ目	外面下位に黒斑
	14		弥・鉢	口(9.9) 高4.5	内 にぶい橙色 外 にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・下ハケ目 口ヨコナデ 外ナデ	外面口縁部に黒斑
	15		弥・鉢	口(14.2)	内 にぶい橙色 外 橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内板状工具ナデ 口ヨコナデ 外ナデ	
SC21 P2	15-9		弥・壺	底(8.8)	内 にぶい黄橙色 外 灰白色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ハケ目 外ハケ目	胴部外面中位・底部に黒斑
	10		弥・短頸壺	口(15.3) 底7.9 高15.4 最胴18.8	内 にぶい黄橙色 外 浅黄橙色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目	後円部か所に穿孔 底部に種子圧痕 外面底部に黒斑
P1	11	9	弥・壺	口7.7 底7.0 高14.6 最胴14.7	内 灰黄褐色 外 にぶい黄橙～灰黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内工具ナデ・ナデ 口打ち欠き 外・上工具ナデ 外・下ヘラケズリ後ナデ	外面下半～底部に黒斑
SK1	19-1		弥・壺		内 浅黄橙色 外 黄橙～黄橙色	石英、金雲母を多く含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目後ナデ	
	2		弥・壺	底7.2	内 浅黄橙色 外 赤～浅黄橙色	石英、金雲母を含む	良	内ナデ 外ハケ目	丹塗土器
SK2 上層	19-3		弥・壺		内 浅黄橙 外 浅黄橙	石英を含む	良	内ナデ 外ナデ	
上層	4		弥・壺		内 浅黄橙 外 褐灰	3～4mm大の石英、長石、金雲母を含む	良	内ナデ 口ナデ 外ハケ目	
	5	10	弥・壺	口(15.8) 底(8.2) 高14.9	内 浅黄橙色 外 褐灰～赤褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目	
	6		弥・支脚	頂13.0	内 橙色 外 淡橙色	石英、金雲母を含む	良	内ナデ 外ナデ	
SK4	19-7		弥・壺	口(30.0) 最胴(30.1)	内 浅黄橙色 外 浅黄橙色	非常に細かい 石英、金雲母を含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目	
	8		弥・壺	底(12.4)	内 淡黄色 外 淡黄色	石英、金雲母を含む	良	内ナデ 外ハケ目	
	9		弥・壺	底(9.2)	内 にぶい橙色 外 明赤褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ 外ハケ目	
	10		弥・壺	底8.5	内 浅黄橙色 外 にぶい黄橙色	石英を含む	良	内ナデ 外ハケ目	
	11		弥・鉢	口(12.6)	内 にぶい黄橙色 外 浅黄橙色	非常に細かい 石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ 口・外ナデ	
	12		弥・高杯		内 浅黄橙色 外 褐灰～黄橙色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ 外ナデ	
SK5	20-1		弥・壺	口(28.8)	内 灰黄褐色 外 にぶい橙色	石英、雲母を含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外・上ハケ目後ナデ 外・下ハケ目	
	2		弥・把手		灰白～浅黄橙色	石英、金雲母を含む	良	ナデ（指頭痕が多く残る）	
上層	3		弥・支脚	頂8.0	内 浅黄橙色 外 浅黄橙色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナデ 外ナデ	
SK7	21-1	10	弥・壺	口30.5 高10.6 つまみ6.6	内 浅黄橙～にぶい橙色 外 にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	つまみ:未調整・ナデ 外ハケ目 縦・頂ヨコナデ 内ハケ目後ヨコナデ・ナデ	頂部内面～端部に スス
	2		弥・壺	口(36.1)	内 にぶい橙～にぶい褐色 外 にぶい褐～にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	外ハケ目 縦・頂ヨコナデ 内ナデ 後工具ナデ	
	3	10	弥・壺	口26.2 底11.1 高24.7	内 にぶい黄橙色 外 灰白～にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	外面底部に黒斑 口縁部にスス
	4	10	弥・壺	口25.3 底10.4 高27.9	内 にぶい黄橙色 外 にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	底部裏面に種子圧痕多数 外面胴部にスス
	5	10	弥・壺	口25.5 底10.4 高26.7	内 橙～にぶい橙色 外 にぶい橙～にぶい褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ナデ・工具ナデ 底ナデ	底部裏面に種子圧痕多数 口縁部～外面にスス
	6	10	弥・壺	口31.2 底7.8 高36.2	内 浅黄橙～にぶい黄橙色 外 にぶい黄橙～にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	内面下半～底部にコゲ 外面胴部にスス
	7	10	弥・壺	口29.8 底7.5 高36.0	内 橙～にぶい橙色 外 にぶい褐～にぶい橙色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	内面中位・底部にコゲ 外面胴部～底部にスス
	22-1	10	弥・壺	口33.5 底8.6 高36.4	内 にぶい黄橙色 外 にぶい黄橙～にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	底部裏面に種子圧痕多数 内面中位に帯状コゲ 口縁部～外面にスス
	2	10	弥・壺	口32.8 底8.4 高35.7	内 橙色 外 橙～にぶい褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	底部裏面に種子圧痕 内面下半に薄いコゲ 口縁部～外面・底部裏面にスス
	3	10	弥・広口壺	底5.9 最胴30.2	内 赤～淡橙色 外 浅黄橙～赤橙色	石英、角閃石、金雲母を含む	良	内・頸～底ナデ 内・頸3方向のはけ 外・頸5方向のはけ 底ナデ	内面頸部～外面胴部下位まで赤色顔料
	4		弥・広口壺	口31.8 底(8.0) 高29.6 最胴(25.7)	内 橙色 外 橙～にぶい黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・頸ヨコナデ 後工具ナデ 内・頸～口ヨコナデ 外・頸ハケ目後ヨコナデ 外・頸3方向ハケ目 底ナデ	底部裏面に種子圧痕
	5	10	弥・広口壺	口22.7 底7.9 高23.9 最胴25.4	内 浅黄橙～橙色 外 浅黄橙～にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・頸・下ヨコナデ 後ナデ 内・頸・上3ナデ 後工具ナデ 内・頸3ヨコナデ 口ヨコナデ 外・頸ヨコナデ 外・頸・下ハケ目	

出土遺構	探索番号	図版番号	器種	法量cm・(現況値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SK7	22-6		弥・広口壺	底9.1 最胴20.8	内にぶい橙色 外にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・胴・下ナデ 内・胴・上ヘラミガキ 外・胴ヘラミガキ 底ナデ	丹塗土器
	23-1	10	弥・ミニチュア土器（壺）	口(7.2) 底4.3 高4.8 最胴7.0	内橙～浅黄橙色 外橙～浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ヨコナデ後下位はエ具ナデ 底ナデ	外面に黒斑
	2	10	弥・短頸壺	口12.3 底6.6 高10.7 最胴10.7	内にぶい黄橙色 外浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ヘラミガキ	丹塗土器
	3	10	弥・短頸壺	口(15.1) 底6.5 高12.5 最胴16.5	内橙色 外橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ヨコナデ後工具ナデ 内・上ヨコナデ 口ヨコナデ 外ヘラミガキ 底ナデ	丹塗土器 内面上位～外面に赤色顔料
	4	11	弥・短頸壺	口18.0 底7.0 高15.8 最胴21.1	内にぶい黄橙～にぶい黄橙色 外淡橙～灰白色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内・下ナデ・工具ナデ 内・上ヨコナデ 口ヨコナデ	口唇部に穿孔か所×2 外面下位～底部に黒斑
	5		弥・短頸壺	口16.7 底7.2 高13.8 最胴18.6	内にぶい橙～橙色 外浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・上ヘラミガキ 口ヨコナデ 外ヘラミガキ 底ナデ	丹塗土器
	6	11	弥・短頸壺	口(16.2) 底7.2 高15.8 最胴(20.0)	内橙色 外浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・下工具ナデ後ナデ 内・上ナデ 口・頸ヘラミガキ 外ヘラミガキ 底ナデ	丹塗土器
	7	11	弥・鉢	口15.6 底5.8 高8.3	内にぶい橙色 外にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナデ 口ヨコナデ 外ナデ 底ナデ	調整が丁寧
	8		弥・支脚	底6.9	内にぶい橙色 外浅黄橙～にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナデ 外工具ナデ後ナデ 底ヨコナデ	器表にスサ様植物痕残あり
	9	11	弥・支脚	受7.3 底8.2 高13.1	内にぶい橙～にぶい橙色 外にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端ヨコナデ 内ヨコナデ 外ナデ 底ヨコナデ	
	10		弥・支脚	受(8.6) 底8.8 高13.5	内にぶい黄橙色 外橙～にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	上端ヨコナデ 内ナデ 外ナデ 底ヨコナデ	
	11	11	弥・器台	受11.0 底13.6 高15.9	内にぶい橙～浅黄橙色 外にぶい橙～浅黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端ヨコナデ 内・上工具ナデ 外ハケ目後ヨコナデ 底ヨコナデ	
	12		弥・器台	受10.9 底13.5 高15.4	内にぶい黄橙～にぶい橙色 外にぶい橙～浅黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端ヨコナデ 内工具ナデ 外ハケ目 底ヨコナデ	底部に黒斑 外面下位にススヨコナデ
	13	11	弥・器台	受10.9 底13.2 高15.9	内浅黄橙色 外浅黄橙～にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端ヨコナデ 内・上下ヨコナデ 内・中ヨコナデ後工具ナデ 外ハケ目 底ヨコナデ	
	24-1	11	弥・高杯	口20.3 底17.0 高23.5	杯・内赤色 杯・外赤色 脚・内浅黄橙色 脚・外赤色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内・下ナデ 杯・内ヨコナデ 口ナデ 杯・外ナデ 脚・外ヨコナデ 裾ナデ 内ナデ	丹塗土器 口縁部上面に7～8本セットの櫛文を18か所 脚部に穿孔(未貫通)
	2		弥・高杯	口26.4	明赤褐～橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内ヨコナデ 口～杯・外ヨコナデ 脚・外ヨコナデ 内ナデ	丹塗土器 口縁部上面に櫛文か所
	3		弥・高杯	口25.5 底15.9	杯・内にぶい橙～橙色 杯・外橙色 脚・内橙色 脚・外橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	杯・内ヨコナデ 口ヨコナデ 脚・外ヨコナデ 裾・内ハケ目 内ナデ	丹塗土器 口縁部上面の櫛文は不明
	4		弥・高杯	口26.9	橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内ヨコナデ 口ヨコナデ 杯・外ヨコナデ	丹塗土器 口縁部上面に櫛文9か所
SK8	20-4	10	弥・ミニチュア	口7.3 底4.0 高5.7	内橙～にぶい橙色 外橙～にぶい黄橙色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ヘラケズリ 口ヨコナデ 外ナデ	外面後円部に薄い黒斑 底部に種子圧痕
	5		弥・高杯	口(26.4)	赤～赤褐色	密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内ヘラミガキ 口ヨコナデ 外横位のヘラミガキ後縦位のヘラミガキ	丹塗土器 口縁部に櫛文
下層	6	10	弥・支脚	受(10.8) 端10.1 高13.0	内にぶい黄橙色 外にぶい黄橙色	ほぼ密 径3mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内ナデ 受部ヨコナデ 外ナデ 裾部ヨコナデ	内面受部・外面にススヨコナデ
下層	7		弥・高杯	端17.9	赤橙～赤褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	外ヘラミガキ 裾端部:ヨコナデ 内:工具ナデ後ハケ目	丹塗土器
SD3	26-3		弥・壺	口(29.8)	内橙～にぶい黄橙色 外にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	口縁部上面に櫛文 外面開部に黒斑
	4		弥・広口壺	口(37.1)	内浅黄橙～褐灰色 外浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内ヨコナデ 口ヨコナデ 外ハケ目	
SD5	26-1		土師器・壺		内灰黄褐～にぶい褐色 外にぶい褐色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ヘラケズリ 口ヨコナデ 外ハケ目	内面開部に薄いコゲ 外面開部にススヨコナデ
	2		弥・壺		内にぶい橙～にぶい黄橙色 外にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ 口・内ハケ目 口ヨコナデ 外ハケ目	
SD6 上層	27-1	11	弥・壺	口(29.4) 底8.6 高33.3	内にぶい橙～にぶい黄橙色 外にぶい黄橙色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ・工具ナデ 口～頸ヨコナデ、一部その後ハケ目 外・上ハケ目 底ナデ	内面開部中位にコゲ 口縁部～外面上位にススヨコナデ 底部裏面に種子圧痕
上層	2	11	弥・壺	口23.3 底10.5 高25.6	内浅黄橙～にぶい黄橙色 外にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ後一部工具ナデ 口ヨコナデ 外ハケ目 底ナデ	口縁部上面～工具圧痕 内面口縁部～外面底部に黒斑 外面下半にススヨコナデ 底部裏面に種子圧痕
上層	3		弥・壺	口(20.4)	内橙色 外橙～にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナデ 口～頸ヨコナデ 外ハケ目	

出土遺構	検図番号	図版番号	器種	法量cm/(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SD6　上層	27～4	11	弥・壺	口:8.7 底:5.4 高:9.8 最頻:11.4	内:灰黄～灰白色 外:浅黄橙～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・頸ナ　内・頸:ヨコナデ後ナデ　口:ヨコナデ　外・頸～胴・上ハケ目　外・下:ヨコナデ　底:ナデ	
上層	5	11	弥・短頸壺	口:(16.3) 底:7.6 高:15.1 最頻:18.9	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙～にぶい黄橙色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・下:工具ナデ　内・中～上:ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目　底:ナデ	外面下位～底部に黒斑 外面中位にススス 底部裏面に種子圧痕
上層	6	11	弥・短頸壺	口:(17.3) 底:(7.2) 高:18.7 最頻:(22.0)	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙色 赤色顔料:赤橙～橙色	やや粗　径7mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナデ　口～頸:ヨコナデ　外:ハケ目後ヘラけずり　底:ナデ	丹塗土器
上層	7		弥・鉢	口:16.1	内:浅黄橙色 外:灰白色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・上:ヨコナデ後ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目	
上層	8	11	弥・策型器台	受部:12.9	内:灰白～にぶい黄橙色 外:にぶい橙～灰白色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　受～突帯:ヨコナデ　外:ハケ目	
上層	9		弥・支脚	底:(7.9)	内:橙色 外:橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ　底:ナデ　外:ナデ	
上層	10	11	弥・器台	受:(12.9 底:(14.3) 高:18.3	内:浅黄橙～にぶい黄橙色 外:橙～浅黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ後、上・下は工具ナデ後ハケ目　受:ヨコナデ　底:ヨコナデ	
下層	28-1		弥・蓋	天井:6.5	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙～浅黄橙色	やや粗　径6mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	天:ナデ　外:ハケ目　内:工具ナデ後ナデ	
下層	2		弥・蓋	天井:5.8	内:浅黄橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ	外面天井部～体部に黒斑
下層	3		弥・策型器台	脚部:(25.8)	内:浅黄橙～橙色 外:橙～浅黄橙色	ほぼ密　径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ヨコナデ　脚上へラけずり後縦文	丹塗土器 脚上部に縦文
下層	4	11	弥・ミニチュア鉢	口:9.0 底:3.6 高:4.0	内:にぶい黄橙色 外:にぶい橙～にぶい黄橙色	ほぼ密　径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ヨコナデ後工具ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目　底:ナデ	内面体部～外面体部:外面底部に黒斑
下層	5		弥・鉢	口:15.9	内:灰黄褐～にぶい黄橙色 外:灰黄褐～にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナデ・ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目	内面～外面上位にススス
下層	6		弥・器台	受:(11.7) 端:(12.6) 高:15.4	内:にぶい橙色 外:浅黄橙色	やや粗　径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目？　外:ハケ目	
	7	11	弥・壺	口:(10.8) 底:(8.8) 器高:37.2	内:にぶい黄橙～灰黄色 外:にぶい黄橙～にぶい黄褐色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナデ・ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目　底:ナデ	内面中位にニガ 内面上位～中位に二次焼成に伴う器表剥離 底部裏面に種子圧痕多数
	8		弥・蓋	天:6.7	内:にぶい黄橙～浅黄橙色 外:浅黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	天:ナデ　外:ナデ後ハケ目　内:ナデ・ハケ目	天井部上面に種子圧痕
	9	11	弥・無頸壺	口:12.4 底:6.2 高:13.0 最頻:16.8	内:橙～にぶい黄橙色 外:橙～にぶい褐色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナデ・ナデ　口:内:ハケ目　口・頸～胴・外:ヨコナデ　外:ハケ目後ナデ	外面下位～底部に黒斑 底部裏面に種子圧痕
	10	11	弥・器台	受部:11.6	内:にぶい橙～にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙～にぶい橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヨコナデ後一部工具ナデ　受:ヨコナデ　外:ハケ目	
SX-1	26-5		弥・壺		内:浅黄橙色 外:浅黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目　口:ヨコナデ　外:ハケ目	
	6		土師器・壺		内:浅黄橙色 外:浅黄橙色	粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ナデ　口:ヨコナデ　外:ハケ目	
SX-2	26-7		弥・小型丸底壺	口:(11.5)	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗　径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナデ　口・内:ハケ目後ヨコナデ　口・外:ヨコナデ　外:手持ちヘラケズリ後ハケ目	外面口縁～胴部に黒斑
	8		弥・器台	端:13.8	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙色	粗　径4mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ヨコナデ・ナデ　外:ナデ後ハケ目　端:ヨコナデ	

表2　横隈上ノ原上遺跡5　出土石器観察表

出土遺構	掲図番号	図版番号	器種	石材	長さcm（残存値）	幅cm（残存値）	厚さcm（残存値）	重さg	備考
SC17	29-1	12	石鏃丁	輝緑凝灰岩	13.1	5.1	0.6	73	外孔径：0.7mm 内孔径：0.5mm
SD3	2	12	石鏃丁	真岩質砂岩	(8.6)	(5.8)	0.7	62	外孔径：1.5mm 内孔径：0.7mm
SC6	3	12	石鏃丁 (再加工品)	緑色泥岩	(10.4)	(3.5)	0.8	26.4	外孔径：0.8mm 内孔径：0.5mm
SC11	4	12	石鏃丁	真岩質砂岩	(7.0)	(4.3)	0.6	2.7	外孔径：0.7mm 内孔径：0.4mm
SC14	5	12	石鏃丁	凝灰岩	(4.6)	(3.5)	0.6	1.6	外孔径：1.2mm 内孔径：0.7mm
SK7	6	12	磨石	安山岩	12.8	10.6	8.9	1,245	
SK1	7	12	台石	安山岩	(12.5)	(7.1)	(3.7)	590	
SK1	8	12	磨石	花崗岩	11.4	7.5	3.4	450	
SC20　P2	9		磨石	安山岩	(7.5)	(6.2)	2.0	135	
SC17　床面	30-1	12	砥石	真岩質砂岩	(11.1)	(4.0)	1.0	83	3面使用
SC11	2	12	砥石	細粒砂岩	(6.7)	3.3	1.7	57	4面使用
SC18	3	12	砥石	砂岩	(5.4)	(3.7)	1.9	46	5面使用
SC14　床下	4	12	砥石	砂岩	(5.3)	2.7	(1.8)	35	3面使用
SC4　P1	5	12	砥石	赤色砂岩	(4.1)	(3.5)	3.5	102.5	3面使用
SC8	6	12	砥石	泥岩	(11.3)	(4.2)	3.9	120	2面使用
SC21　P1	7	12	砥石	砂岩	(4.8)	(4.6)	1.5	28.6	4面使用
SC20	31-1	13	台石	砂岩	(26.5)	(14.5)	5.3	3,080	敲打面と砥面がある
SC23　P1	2	13	砥石	真岩	(20.2)	(10.5)	(4.9)	1,428	鉄製品用か 3面使用
SC20	3	13	台石	花崗岩	15.6	8.0	5.2	1,450	
SC5	4	13	砥石	砂岩	11.3	6.7	4.8	475	4面使用
SC7　上層	5	13	砥石	泥岩	(10.1)	6.3	5.0	605	5面使用
SC21	6	13	砥石	細粒砂岩	(8.6)	(8.6)	(5.4)	551	4面使用

表3　横隈上ノ原上遺跡5　出土縄文土器・土製品観察表

出土遺構	掲図番号	図版番号	器種	法量cm³g（復元値）	色調	胎土	焼成	成形・調整	備考
SC3	32-1		縄文土器鉢		内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色	1mm以下の角閃石・雲母をわずかに含む	良	内:ﾅﾃﾞ　外:押型文	
	2		縄文土器鉢		内:にぶい黄褐色 外:橙色	1mm大の雲母を多く含む	やや良	内:ﾅﾃﾞ　外:押型文	
SC17	3		土製投弾	長:4.0 幅:2.3 重:15.4	橙色	精良	良	ﾅﾃﾞ	
SD6　上層	4		土製投弾	長:3.5 幅:2.4 重:12.8	橙色	精良	良	ﾅﾃﾞ・指頭圧痕	
SK7	5		不明土製品	長:3.4 幅:1.0 重:3.1	にぶい赤褐色	精良	良	ﾅﾃﾞ	穿孔

表4　横隈上ノ原上遺跡5　出土鉄製品観察表

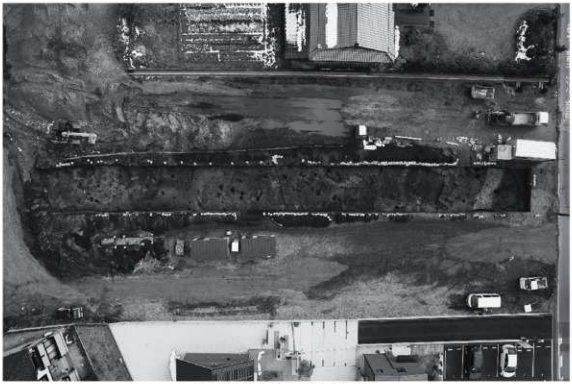
出土遺構	掲図番号	図版番号	器種	長さcm（残存値）	幅cm（残存値）	厚さcm（残存値）	備考
SC13	33-1	13	鋲状鉄製品	(11.6)	1.4	1.1	
SC13	2	13	ヤリガンナ	(4.8)	1.3	0.3	
SC4	3	13	鉄鏃	4.6	3.5	0.7	
SC13	4	13	刀子	(8.1)	(1.3)	0.4	

①調査区遠景（北東から）

②調査区遠景（北から）

図版 2

①調査区北部全景（上空から）



②調査区南部全景（上空から）

①１号住居跡貼床面（北西から）

⑤２号住居跡完掘（西から）

②１号住居跡完掘（西から）

⑥２号住居跡土層断面（南から）

③１号住居跡土層断面（東から）

⑦３号住居跡貼床面（南西から）

④２号住居跡貼床面（北東から）

⑧３号住居跡完掘（南西から）

図版 4

①4号住居跡貼床面（南西から）

⑤6・7号住居跡貼床面（西から）

②4号住居跡完掘（南西から）

⑥6号住居跡完掘（北から）

③5号住居跡貼床面（西から）

⑦7号住居跡完掘（北西から）

④5号住居跡完掘（西から）

⑧8号住居跡完掘（北東から）

① 9・10 号住居跡貼床面（西から）

⑤ 17 号住居跡貼床面（東から）

② 11 号住居跡貼床面（西から）

⑥ 19・20 号住居跡貼床面（南から）

③ 12 ～ 15 号住居跡貼床面（南から）

⑦ 21 号住居跡貼床面（北西から）

④ 16 号住居跡貼床面（南から）

⑧ 21 号住居跡完掘（西から）

図版 6

① 22 号住居跡完掘（東から）

⑤ 5 号土坑土層断面（南から）

② 2 号土坑完掘（南東から）

⑥ 7 号土坑遺物出土状況（北から）

③ 3 号土坑土層断面（南から）

⑦ 1 号溝状遺構完掘（北から）

④ 4 号土坑完掘（南西から）

⑧ 3 号溝状遺構完掘（西から）

① 4 号溝状遺構完掘（西から）

⑤ 6 号溝状遺構東壁土層断面（西から）

② 5 号溝状遺構完掘（西から）

⑥ 1 号不明遺構完掘（東から）

③ 6 号溝状遺構完掘（北西から）

⑦ 2 号不明遺構完掘（北から）

④ 6 号溝状遺構西壁土層断面（東から）

図版 8

11-1

11-10

12-14

11-2

11-15

13-5

11-3

12-1

13-10

11-4

12-4

13-11

11-5

12-5

13-12

11-9

12-13

13-15

14-1

15-1

16-1

14-2

15-3

16-2

14-3

15-4

16-4

14-4

15-5

16-5

14-5

15-8

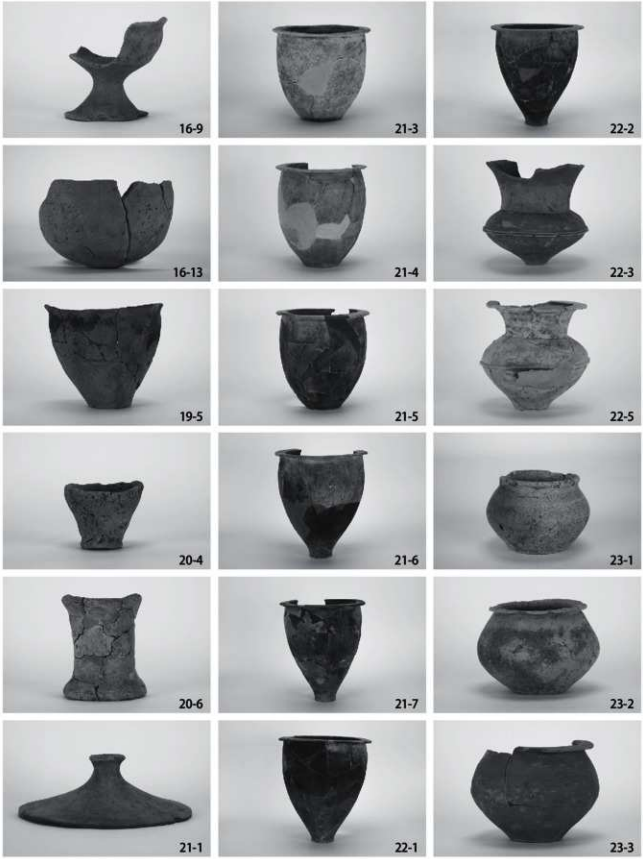
16-6

14-6

15-11

16-7

図版 10


16-9
21-3
22-2
16-13
21-4
22-3
19-5
21-5
22-5
20-4
21-6
23-1
20-6
21-7
23-2
21-1
22-1
23-3

23-4

24-1

27-8

23-6

27-1

27-10

23-7

27-2

28-4

23-9

27-4

28-7

23-11

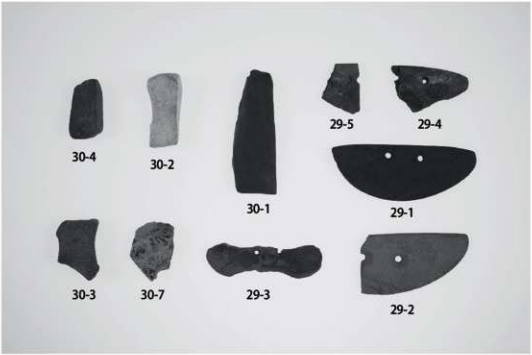
27-5

28-9

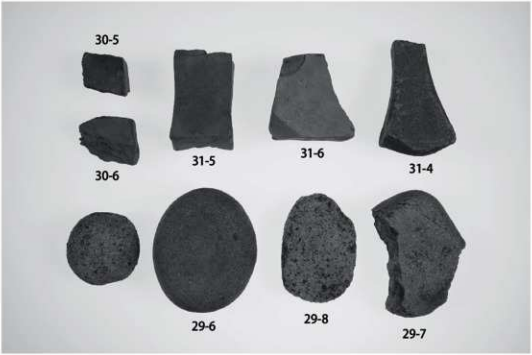
23-13

27.6

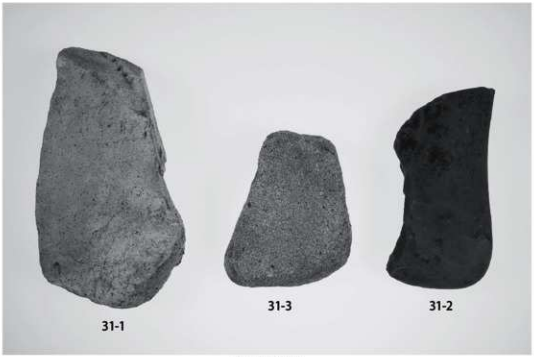
28-10


30-4
30-2
30-1
29-5
29-4
29-1
30-3
30-7
29-3
29-2

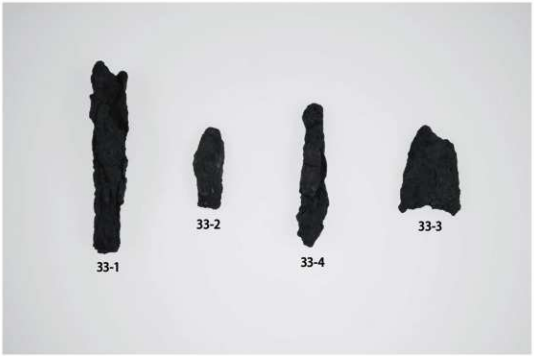
出土石器①


30-5
30-6
31-5
31-6
31-4
29-6
29-8
29-7

出土石器②



出土石器③



出土鉄製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	よこぐまうえのはらうえいせき５							
書名	横隈上ノ原上遺跡５							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 346 集							
編著者名	一木賢人							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198　福岡県小郡市小郡 255-１　☎0942-72-2111							
発刊年月日	2022 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
横隈上ノ原上遺跡5	福岡県 小郡市 横 隈	40216		33° 43′ 17″	130° 57′ 02″	2020. 9. 1 ～ 2021. 1. 29	666. 73 ㎡	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構			主な遺物	特記事項
横隈上ノ原上 遺跡５	集落	弥生時代 古墳時代		住居跡　24 軒 土坑　7 基 溝状遺構　6 条 不明遺構　2 基 ピット群			弥生土器 土師器 石器 土製品 鉄製品	
要約	当遺跡は、小郡市北部に広がる三国丘陵の東端に位置し、標高は 20m前後を測る。遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期初頭にかけての集落で、多くの住居跡が著しく切り合う状況で確認された。調査区南端で検出した大型の溝状遺構は、弥生時代中期末を中心とした時期の遺構で、当遺跡から東側にある３次調査区でも確認されている。これを結ぶと長さは 75m 以上となり、遺構の分布状況を考慮すると、当該時期の集落の南限を示す区画溝である可能性が指摘できる。							

横隈上ノ原上遺跡５

小郡市文化財調査報告書

第 346 集

2022 年 3 月 31 日

発 行　小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡 255－1

印 刷　片山印刷（有）

福岡県小郡市紙園 1－8－15